

**第2次
安曇野市生涯学習推進計画
(後期計画)**

令和5(2023)年3月

安 曇 野 市



生涯を通じた学びの創出において

生涯学習の役割は、あらゆる人々に学びの機会を提供し、その学びの成果の活用を促すことによって、一人ひとりにより豊かな人生を歩んでいただくことにあります。また、学びは個々の人生を豊かにするとともに、よりよい地域づくりにも重要です。「人生 100 年時代」と言われる今、少子高齢化、人口減少など、社会構造の変化に柔軟に対応していくためには、生涯にわたっての学びが今後ますます重要になります。

さて、『第 2 次安曇野市生涯学習推進計画』は策定から 5 年が経過したことから、これまでの取組を検証しました。そして、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って新しい生活様式が定着しつつあるウィズコロナ・アフターコロナ時代への対応や、安曇野市が県下に先駆けて令和 4（2022）年 4 月に制定した『安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり条例』の基本理念の反映、さらには全世界共通の目標で令和 12（2030）年までに達成を目指す SDGs に対応するために、本計画を改定しました。

安曇野市は、豊かな自然環境、歴史、風土に生まれ、学びの場として最適な環境を有しています。本計画の基本理念である「ふるさと安曇野をまるごと学びの場にして生きる」には、生涯学習に本市のこの魅力を最大限に活かそうという思いが込められています。

後期計画でもこの基本理念を継承しつつ、市民の皆様がより豊かな生活を送れるよう、着実な施策展開を図っていきます。本計画へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

あわせて、本計画をもとに、市民の皆さんが、生涯にわたって自分らしく自ら学習活動に生き生きと参加されますよう期待いたします。

結びに、本計画の改定にあたり、ご尽力いただきました安曇野市社会教育委員の皆さまをはじめ、貴重なご意見をいただきました市民の皆さま、関係者の皆さまに心から感謝を申し上げます。

令和 5（2023）年 3 月

安曇野市長 太田 寛

目次

第1章 計画策定にあたっての基本的事項

1.1 生涯学習の定義	2
1.2 生涯学習の意義と役割	2
1.3 生涯学習推進計画の策定経過と改定の背景	3
1.4 本計画の位置付けと性格	3
1.5 本計画の対象期間	3

第2章 本市の生涯学習を取り巻く環境

2.1 社会情勢の変化	4
2.2 行政の生涯学習に関する取組動向	6
2.3 上位計画の目標等	8
2.4 生涯学習に係る公民館の役割	9

第3章 生涯学習の基本理念とスローガン

3.1 生涯学習の基本理念	10
3.2 ライフステージごとの生涯学習のスローガン	10

第4章 生涯学習の推進に向けた施策展開

4.1 学習機会の充実	12
4.2 学習成果の活用	40

第5章 本計画の進め方

5.1 総合的な推進体制の継承 ～各主体の役割の明確化～	54
5.2 計画管理の手法 ～計画の実効性の担保～	56

付属資料

資料1 計画策定にかかる委員会の委員名簿	62
資料2 用語解説	63

第1章 計画策定にあたっての基本的事項

1.1 生涯学習の定義

「生涯学習」とは、乳幼児期から高齢期まで人生の各段階で、個人や家庭、職場、地域社会に生じる課題等に応じて、自己実現や社会貢献、地域の課題解決を目指し、自発的意思に基づいて行うことを基本とした学習活動です。

その活動内容は幅広く、学校や職場、行政や公民館活動などで意図的・組織的に行われる学習活動のみならず、個人や家族、仲間と日常的に行うスポーツ活動、文化活動、趣味・レクリエーション活動、さらにはボランティア活動、企業内教育なども含まれ、活動の場は、家庭や学校、職場から地域社会に至るまで広範囲に及ぶものです。

1.2 生涯学習の意義と役割

生涯学習は、何かを学ぶこと、楽しむことで一人ひとりの人生を生きがいのある充実したものにすることでなく、学びを通じて人と人とがつながり、お互いに尊重し合い、交流を深めながら、皆が幸せと誇りを感じられる、豊かで住みよい地域社会の構築に資する役割も期待されています。



1.3 生涯学習推進計画の策定経過と改定の背景

安曇野市（以下「本市」という）では、平成 30（2018）年 3 月に『第 2 次安曇野市生涯学習推進計画』を策定し、生涯学習の機会の充実と成果の活用を軸に様々な施策展開を図ってきました。

計画策定から 5 年を経過し、社会情勢を含め本市の生涯学習を取り巻く環境の変化もみられるなかで、施策内容などの見直しを行い、令和 5（2023）年度から令和 9（2027）年度までの 5 か年を計画期間とする『第 2 次安曇野市生涯学習推進計画 後期計画』（以下「本計画」という）を策定しました。

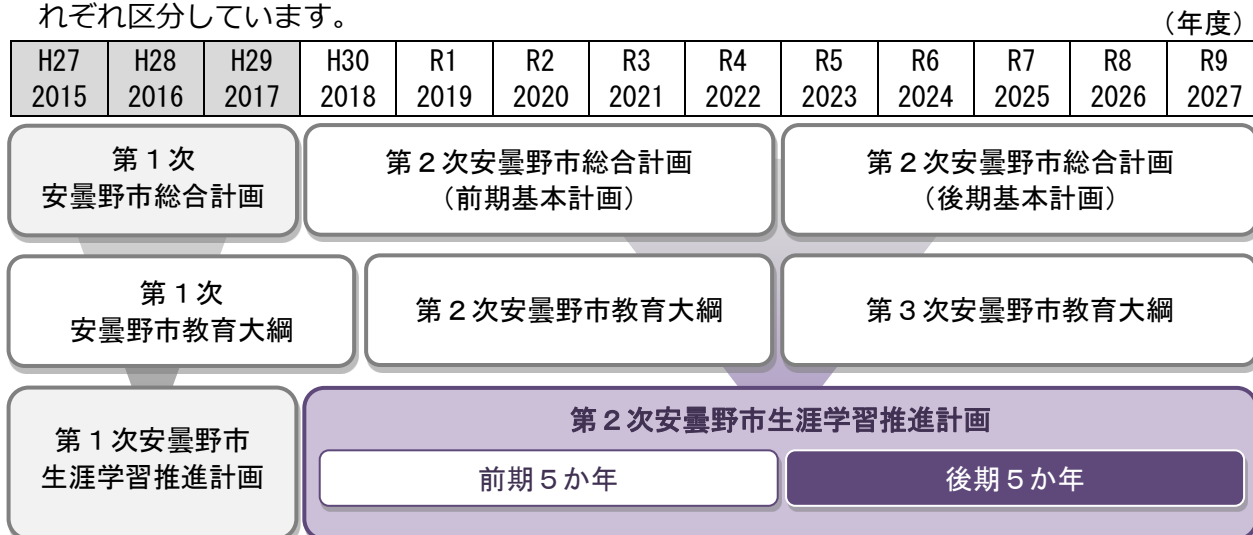
1.4 本計画の位置付けと性格

本計画は『第 2 次安曇野市総合計画 基本構想・後期基本計画』（令和 5 年 3 月策定、以下「総合計画」という）や安曇野市教育大綱『安曇野市の教育』（令和 5 年 3 月策定、以下「教育大綱」という）を上位計画として、本市における生涯学習に関わるすべての取組の指針となるものです。

したがって、総合計画との整合を図るとともに、関連する諸計画とも連携して、生涯学習の推進を図るものとします。

1.5 本計画の対象期間

当初の計画対象期間は総合計画に合わせて、平成 30（2018）年度から令和 9（2027）年度までの 10 か年です。このうち、平成 30（2018）年度から令和 4（2022）年度までの 5 か年を前期に、令和 5（2023）年度から令和 9（2027）年度までの 5 か年を後期に、それぞれ区分しています。



第2章 本市の生涯学習を取り巻く環境

2.1 社会情勢の変化

(1) SDGsへの貢献

SDGs(持続可能な開発目標)は、持続可能でより良い社会の実現に向けて令和12(2030)年までに達成を目指す国際目標で、国のみならず、地方自治体が策定するあらゆる計画において、この目標を念頭に置いた取組を推進していくことが求められています。

SDGsには全部で17の目標(下図参照)があり、生涯学習分野ではとくに「③すべての人に健康と福祉を」や「④質の高い教育をみんなに」、「⑪住み続けられるまちづくりを」などの目標達成に対する貢献が期待されます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



(2) 経済のグローバル化や ICT 技術の急速な進展

経済のグローバル化や、ICT^{巻末1}の急速な進展により、近年、社会の変化の速度が速まりつつあります。AI^{巻末2}やIoT^{巻末3}、ビッグデータ^{巻末4}など技術革新の成果の活用を図りながら、仮想空間と現実空間を高度に融合して、人々が生き活きと活動できる「超スマート社会(Society5.0)^{巻末5}」の実現を目指す取組も進められています。

こうした変化に応じて、人々は絶えず新たな能力や知識、技術の習得が求められ、知的関心の高まりとともに、個人や社会のニーズを踏まえた学習機会の提供が求められています。

(3) With/After コロナの時代への対応

令和元（2019）年に発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大によって様々な活動が制限され、生涯学習の取組にも大きな影響を及ぼしています。いまだ収束の見通しが立たない状況下において、感染拡大防止のために定着が図られてきた「新しい生活様式」に合わせた生涯学習の取組推進が求められています。

(4) 個人の価値観やライフスタイルの多様化

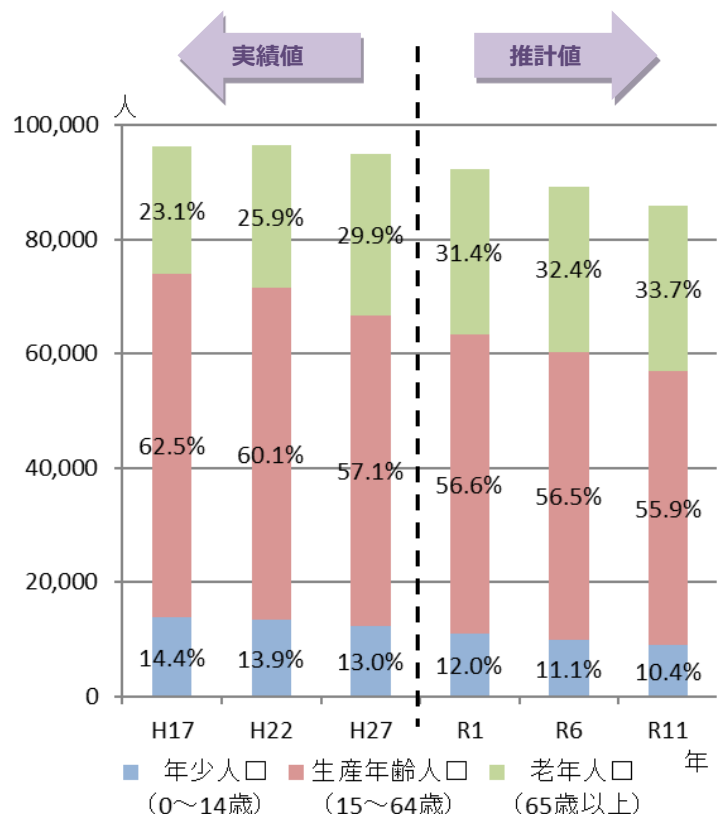
社会の成熟化に伴い、個人の価値観やライフスタイルが多様化し、地域に根差した学習活動の機会は減少傾向にあります。その一方で、インターネットや SNS (Facebook や Twitter など) ^{巻末 6} の普及により、それらの機能を活用した学習機会の提供や学習コミュニティの形成など、人々の学習スタイルや学習環境に大きな変化もみられるようになってきました。

地域の課題も複雑化するなかにあって、こうした変化を捉えて、学習機会の充実と学習成果の活用の方策を考えていく必要があります。

(5) 少子高齢化・人口減少社会の進行

全国的な傾向と同様に、本市でも少子高齢化と人口減少が確実に進むなかで、今後見込まれる地域経済の縮小や地域コミュニティの担い手不足、社会保障費の負担増が大きな課題となっています。

これらの社会的課題に対応するため、高齢者を含めて住民一人ひとりが生きがいをもち、健康の維持・増進に努めながら自己実現を図るとともに、その学習成果を有効活用し、社会への参画を通じて、個人の自立や地域社会の共助につなげていく取組が今まで以上に求められています。



出典：国立社会保障人口問題研究所

安曇野市の人口動態と将来推計

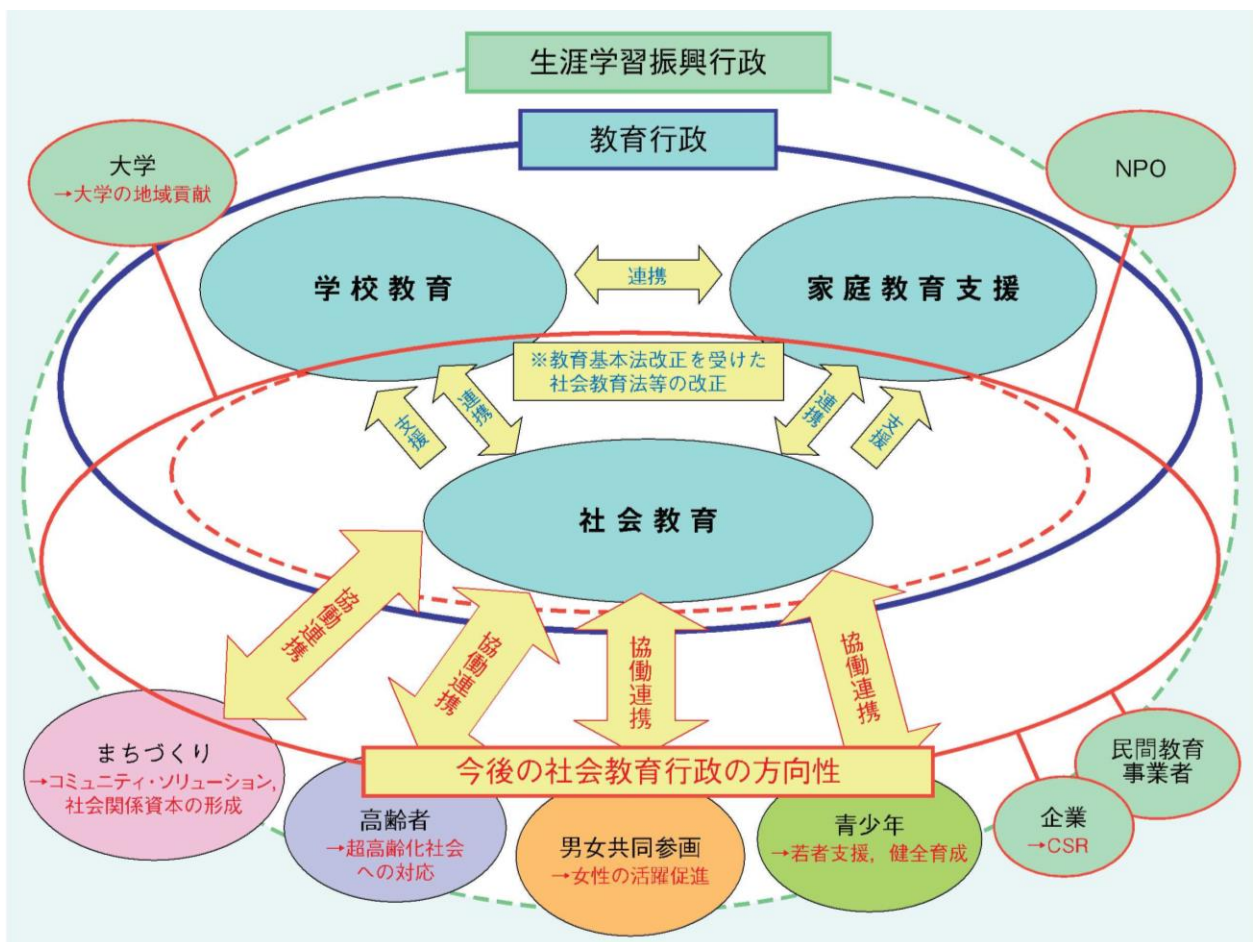
2.2 行政の生涯学習に関する取組動向

(1) 国の生涯学習に関する取組動向

文部科学省では、学校教育、家庭教育支援、社会教育からなる教育行政を包括するかたちで、まちづくりや高齢者、男女共同参画、青少年、企業、民間教育事業者、大学、NPOなどと協働・連携して取り組む方向性を描き、生涯学習の振興が図られてきました。

国民一人ひとりが自己の人格を磨き、豊かな人生を送れるよう、生涯にわたって、あらゆる機会や場所で学習でき、その成果を適切に生かせる社会の実現を目指し、取組を進めています。

また、地域課題解決の担い手の育成や家庭教育の支援、青少年の健全な育成のための取組も進められています。



出典：平成 24 年度文部科学白書（抜粋）

今後の社会教育行政の再構築のイメージ

(2) 県の生涯学習に関する取組動向

長野県は、生涯学習に関して、令和5（2023）年3月に策定された『第4次長野県教育振興基本計画』のなかで「生涯にわたり誰もが学び合える地域の拠点をつくる」を施策の柱のひとつに掲げ、将来像の「共学共創によって、学校をはじめ多くの主体が地域の学びのハブ（中核）として社会とシームレス（継ぎ目のない状態）になり、地域の中で、様々な価値観を尊重し合い、多様な学びや創造が循環している」を実現するために、具体的な施策の方向として「共学共創による地域づくり」と「生涯を通じて学ぶことができる環境づくり」を挙げ、必要な取組を示しています。

また、令和5（2023）年3月に策定された『長野県総合5か年計画』では、政策の柱のひとつに「誰もが主体的に学ぶことができる環境をつくる」を掲げ、「一人ひとりが自分にとっての幸せを実現できる学びの推進」や「学びの共創による地域づくりの推進と生涯を通じた多様な学びの創造」などの施策を示しています。

また、文化の日に合わせて11月を「生涯学習月間」として、県民一人ひとりの生涯学習の意識向上や、あらゆる場で生涯学習活動ができる環境づくりの促進に努めています。

(3) 市の生涯学習に関する取組動向

本市は、年齢や性別、国籍、障がいの有無にかかわらず、多様性を尊重し合う共生社会の実現に向けて、県内の市町村に先駆け、令和4（2022）年4月に『安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり条例』を制定しました。生涯学習の分野においても、この条例に示された目的や基本理念を踏まえた施策展開が求められています。

これを受けて、令和5（2023）年3月に策定した総合計画には、「生涯を通じた学びの創出」を基本施策に掲げ、すべての人が生涯を通じて主体的に学び、その成果を地域で生かせる環境づくりを進めています。

また、『第2次安曇野市生涯学習推進計画』で生涯学習の基本理念として掲げた「ふるさと安曇野をまるごと学びの場として生きる」を念頭に、市民の皆さんの"学びたい!"を支援するために、平成31（2019）年4月から、地域の公民館や交流学習センター、体育施設などの施設情報や、市内で活動しているサークルや団体の情報などを掲載した情報冊子『安曇野市生涯学習情報「Link（リンク）」』の発行を始めました。春と秋に年2回発行し、安曇野にある様々な「学びの場」を生かして、子どもから大人まで、自ら生涯学習のきっかけとなる『ひと』や『もの』、『場所』を見つけて、新しい体験を始められるよう、生涯学習に関する最新情報の提供に努めています。

2.3 上位計画の目標等

本計画の上位計画である、総合計画及び教育大綱における生涯学習の位置づけを、それぞれ以下に示します。

(1) 第2次安曇野市総合計画（後期基本計画）

総合計画では、将来ビジョン「自然、文化、産業が織りなす 共生の街 安曇野」のもと、目標の一つに掲げた「学び合い 人と文化を育むまち」に資する施策として、「生涯を通じた学びの創出」が位置づけられています。



第2次安曇野市総合計画 基本構想・後期基本計画の体系

(2) 安曇野市教育大綱

教育大綱では、基本理念のなかで、すべての人が生涯を通じて学び合うことの重要性を示し、基本方針の一つに「生涯を通じた学びの創出」を掲げて、「多様化する学びの要望に応え、情報や人と人が出会う環境を整え、さまざまな人々が集い交流し、生涯にわたって自分らしく自ら学習活動に参加できる地域社会をつくる」としています。

- *からだを動かし、頭で考え、心に感ずる“未来を拓くたくましい安曇野の子ども”を育みます。**
- *すべての人が生涯を通じて学び合い、文化・芸術のかおり高い安曇野を目指します。**

※「からだを動かし、頭で考え、心に感ずる」は、安曇野市堀金出身の文芸評論家・作家・教育者の臼井吉見さん(1905-1987)の講演「中学生諸君に望む」(1967)から

安曇野市教育大綱の基本理念

2.4 生涯学習に係る公民館の役割

生涯学習の拠点である公民館は、社会教育法第 20 条に定める「市民の生活文化の振興と社会福祉の増進に寄与する」ことを目的としています。

本市では、『安曇野市公民館の理念』のもと、常に地域住民の交流と学習の場としてあり続けるために、地区公民館と協力して様々な生涯学習事業を展開しています。

「安曇野市公民館の理念」

平成 27 年 10 月 26 日制定

1 地域づくりを地区公民館とともに進めます。

市民に最も身近な公民館は、自治公民館である地区公民館です。地域づくりは、そこに住む人々が集い交流することから始まります。安曇野市公民館は、地区公民館と協力して地域づくりを進めます。

2 地域のつなぎ役として、各種団体と連携し交流を進めます。

地域には、様々な団体やグループがあります。それらが交流することで、新たな仲間や活動が生まれます。安曇野市公民館は、各種団体などの育成とコーディネーターを務め、地域内の交流を進めます。

3 事業の継続性を大事にしながら、時代に即したものに発展させます。

公民館には、長い間親しまれ、地域の特性を生かした事業が数多くあります。積み重ねた事業は、市民の貴重な財産や思い出となり、地域の絆を深めます。安曇野市公民館は、地域と人づくりに貢献する継続事業を大切にしつつ、時代に沿ったものへと展開します。

4 市民に最も身近な生涯学習活動の場を提供します。

市民が自らの意思に基づいて行う学習活動は、生きがいとなり、住みよい地域社会の創造に繋がります。安曇野市公民館は、市民が生涯学習をいつでも気軽にできる場と情報の提供に努めます。

第3章 生涯学習の基本理念とスローガン

3.1 生涯学習の基本理念

本市の生涯学習を取り巻く環境を踏まえ、本計画では、生涯学習を人や文化を育み生かし、より良いまちづくりにつなげる取組と捉え、その基本理念を以下のように定めました。

～ふるさと安曇野をまるごと学びの場にして生きる～

場所を問わず、性別、年齢、職業、言語、人種、国籍、思想、障がいの有無を問わず、誰もがこの豊かな自然環境に育まれた歴史・文化・風土の織りなす安曇野のフィールド全体を、「学びの場」としてまるごと生かしてほしいという想いを込めて設定

3.2 ライフステージごとの生涯学習のスローガン

この基本理念のもとに、次ページに示すライフステージごとの特徴を踏まえて、各世代に向けてそれぞれにスローガンを定め、全世代に生涯学習の取組を広げます。

【24歳以下の世代】

『夢・未来へ 学びで新しい自分や仲間と出会おう』

夢に向かって、安曇野の未来をつくる子どもたちが、自らの可能性を広げるために、またその後の人生で共に高め合っていける仲間を見つけるために、成長の各段階で、学びを通してよき出会いを見つけてほしいという想いを込めて設定

【25～44歳の世代】

『家族も地域も みんなで楽しく学び合おう』

子育てに関わる方も多くなり、その過程で地域との関わりも増えてくるなかで、みんなで楽しく学び合うことが自分・家族・地域のためになるとの想いを込めて設定

【45～64歳の世代】

『学びでリフレッシュ！ 自分を磨き、社会に役立てよう』

家族や組織、地域における責任や役割が増してくる時期。だからこそ、学びの時間をつくり、心身のリフレッシュを図るとともに、自らを磨き、学びを深め広く社会に役立てていくことで、より充実した人生を築いてほしいという想いを込めて設定

【65歳以上の世代】

『学びながら生きる 次代の安曇野人を育もう』

子どもらが巣立ち、自身が定年を迎えるなど、時間にゆとりが生まれてくるなかで、人として学び続けることに生きる意義や価値を見出し、その学びの成果や人生の経験を後世に伝え、次代を育む先導者（安曇野人）になってほしいという想いを込めて設定

＜ライフステージごとの特徴＞

医療体制の充実、医学の進歩、生活水準の向上等により、平均寿命、健康寿命は伸長しています。長い人生をより豊かで充実したものにするためには、若者から高齢者までいくつになっても、誰もが新たな学びにチャレンジでき、継続して学び、元気に活躍し続けられる社会の構築を図ることが求められます。

平成 28（2016）年に実施したアンケート結果を、性別や年齢、職業など回答者の属性で分析したところ、年齢による違いが比較的顕著にみられました。就職や結婚、子育て、介護、退職など生活スタイルが変化する時期を目安に、年齢を大きく 4 つの世代に区分し、各世代の特徴を「ライフステージごとの特徴」として捉え、下表にまとめました。

生涯学習の取組を今後、より一層推進していくためには、このライフステージごとの特徴を踏まえた、きめ細かな施策展開が求められます。

ライフステージごとの特徴

世代区分	「生涯学習」という言葉の認知度	過去 5 年間の生涯学習の取組状況	生涯学習の妨げ要因	新たに学びたい分野・関心のあるテーマ	生涯学習を通じて役立てたいと思っていること	効果的だと思う情報提供手段
24 歳以下	・ 4 つの世代区分のなかで、最も認知度が低い	・ 4 つの世代区分のなかで、最も生涯学習に取り組んでいる人が少ない	・ 仕事や学校が忙しい ・ きっかけがない ・ 情報がない	・ スポーツ ・ 職業上必要な知識 ・ パソコン、インターネット ・ 外国語 ・ 芸術	・ 仕事や就職 ・ 教養の向上 ・ 生活の安定	・ インターネット ・ ポスター ・ 折込チラシ ・ SNS ・ 『広報あづみの』
25 ～ 44 歳	・ 24 歳以下の世代に次いで、認知度が低い	・ 45～65 歳の世代に次いで、生涯学習に取り組んでいる人が多い	・ 24 歳以下世代と同様の理由 ・ 費用がかかる ・ 子育て中のため	・ 子育て ・ スポーツ ・ 健康づくり ・ 外国語 ・ 職業上必要な知識	・ 生きがいづくり ・ 教養の向上 ・ 健康維持	・ 『広報あづみの』 ・ インターネット ・ 新聞 ・ 折込チラシ ・ 市のホームページ
45 ～ 64 歳	・ 65 歳以上の世代に次いで、認知度が高い	・ 4 つの世代区分なかで、最も生涯学習に取り組んでいる人が多い	・ 仕事や学校が忙しい ・ きっかけがない ・ 情報がない ・ 費用がかかる ・ 介護中のため	・ 健康づくり ・ スポーツ ・ 芸術	・ 生きがいづくり ・ 健康維持 ・ 教養の向上	・ 『広報あづみの』 ・ 回覧板 ・ 新聞 ・ 折込チラシ ・ 市のホームページ
65 歳以上	・ 4 つの世代区分のなかで、最も認知度が高い	・ 24 歳以下の世代に次いで、生涯学習に取り組んでいる人が少ない	・ きっかけがない ・ 情報がない ・ 体調の問題 ・ 移動手段がない	・ 健康づくり ・ 安曇野の歴史や風土 ・ スポーツ	・ 健康維持 ・ 生きがいづくり	・ 『広報あづみの』 ・ 回覧板 ・ 新聞 ・ 折込チラシ

注) アンケート結果の各設問の回答率を世代間で比較したときの相対的な順位や、複数回答で世代ごとに回答率の高い項目を抽出

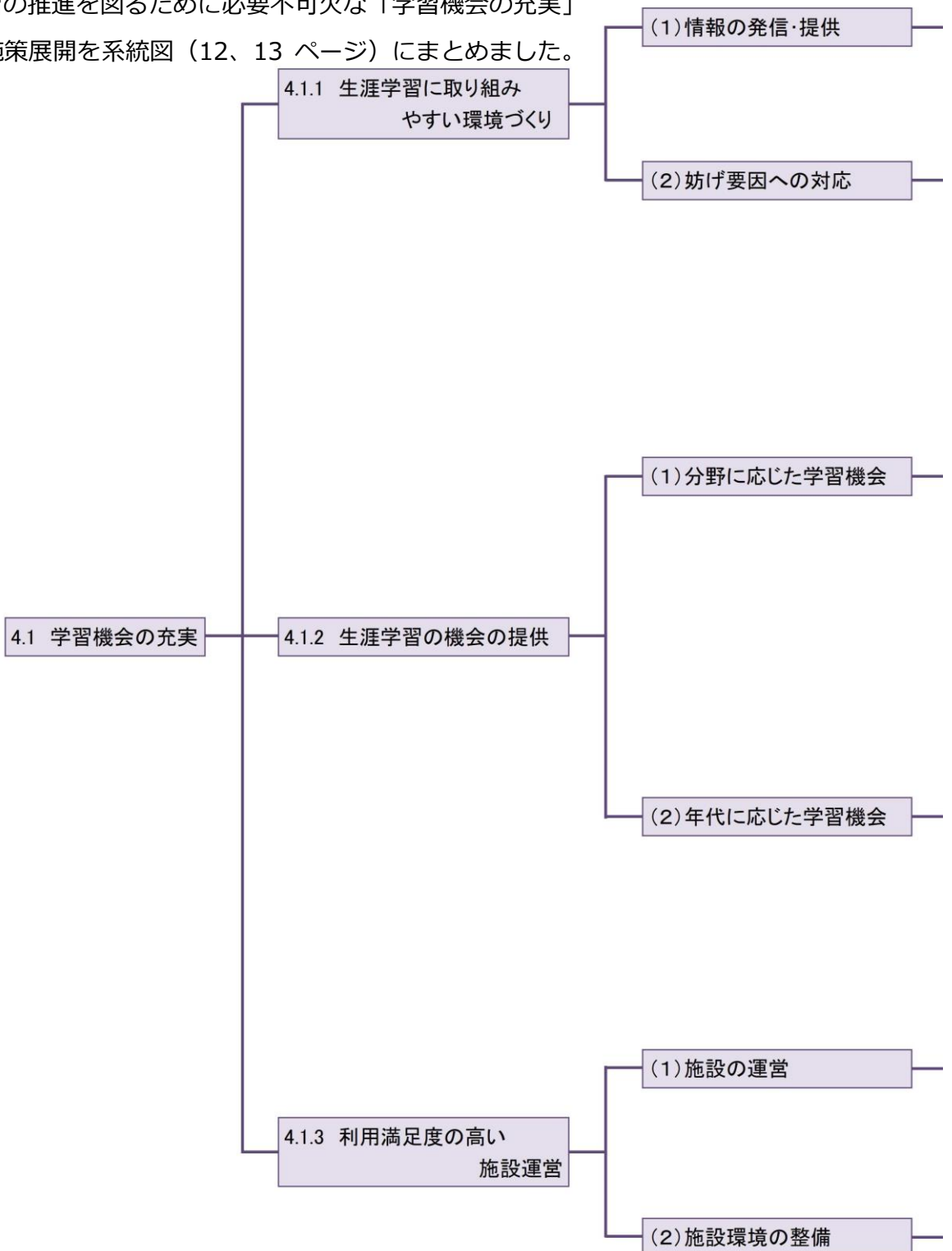
第4章 生涯学習の推進に向けた施策展開

本章では今後の施策を 4.1「学習機会の充実」と 4.2「学習成果の活用」の2つに分けて、それぞれ冒頭に施策体系を図示したうえで、具体的な施策展開の内容を示します。

4.1 学習機会の充実

生涯学習の推進を図るために必要不可欠な「学習機会の充実」に資する施策展開を系統図（12、13 ページ）にまとめました。

～ふるさと安曇野をまるごと学びの場にして生きる～



ライフステージごとに定めたスローガン

【24歳以下の世代】	【25～44歳の世代】	【45～64歳の世代】	【65歳以上の世代】
夢・未来へ 学びで 新しい自分や仲間と 出会おう	家族も地域も みんなで楽しく 学び合おう	学びでリフレッシュ！ 自分を磨き、社会に 役立てよう	学びながら生きる 次代の安曇野人を 育もう

〔施策項目〕と〔施策目標〕は14～39ページの間を示す施策内容と対応しています。
〔施策目標〕

〔施策項目〕

① 冊子『安曇野市生涯学習情報「Link(リンク)」』の発行	: 市民が生涯学習情報を一括して入手できるようにする →P15
② 公民館報の発行	: 市民に公民館活動の内容や成果を見てもらうことで、学習意欲を高める →P15
③ インターネットを活用した情報発信	: 市民が多様な媒体から生涯学習情報を得られるようにする →P16
④ SNS 上でのコミュニティ創出のきっかけづくり	: 市民同士が情報交換・交流する場(その他発表の場・人材育成の場)のきっかけをつくる →P16
① 講座開催日時の工夫	: 仕事で忙しい人でも生涯学習に参加できる環境をつくる →P18
② 公民館講座の開催	: 交通手段がない人でも身近な施設で生涯学習に参加できる機会をつくる →P18
③ 「電子申請サービス」の活用	: 市民が気軽に生涯学習に参加できる環境をつくる →P19
④ 子どもの読書活動の推進	: 子どもが自主的に読書活動を行うことができる環境整備を図る →P19
⑤ 託児サービスの提供	: 子育て中でも生涯学習に参加できる環境をつくる →P20
① 人権に関する講座の開催	: 市民が人権について学ぶ機会を設ける →P22
② ICT 関連講座の開催	: 市民が IT や ICT の専門的な知識について学ぶ機会を設ける →P22
③ 日本語教室の開催	: 外国籍市民等と地域住民が「やさしい日本語」や「文化の違い」を理解することで、お互いを尊重し、安心して暮らしていけるよう、多文化共生社会の実現を目指す →P23
④ 図書館講座等の開催	: 市民のニーズに合わせた学習支援、調査研究支援のために講座、講演会等を開催する →P23
⑤ 博物館・美術館・文書館等講座の開催	: 市民が自然・考古・歴史・民俗・美術等の諸分野を学べる機会を設ける →P24
⑥ 芸術公演・講習会の開催	: 市民に多種多様な学びの場を提供するためコンサートやワークショップを開催する →P24
⑦ 鑑賞機会の充実	: 市民の芸術鑑賞機会の充実のため、各種展覧会を実施する →P25
⑧ 共生社会づくりフォーラムの開催	: 市民が共生社会づくりについて学ぶ機会を設ける →P25
⑨ 共生社会づくりのための講座の開催	: 市民が共生社会づくりを考える機会を設ける →P26
⑩ 環境講座の開催	: 市民が環境について学ぶ機会を設け、環境への意識を高める →P26
⑪ スポーツ教室の開催	: スポーツ初心者や未経験者が運動する機会を設ける →P27
⑫ 防災啓発活動の支援	: 市民の防災意識を高める機会を設ける →P27
⑬ 災害時福祉避難スペース設置訓練	: 市民が災害時の要配慮者の対応方法について学ぶ機会を設ける →P28
⑭ 協働のまちづくり出前講座の開催	: 市民が生涯学習に対する意欲と市政への関心を高める機会を設ける →P28
① 博物館・美術館における親子向け事業の実施	: 親子が歴史資料や美術品に触れられる機会を設ける 市内の公共施設等へのアウトリーチを行う →P30
② 「おはなしかい」等の定期開催	: 親子で本に親しんでもらう機会を設ける →P30
③ ブックスタート・セカンドブック事業の実施	: 親子が絵本を介して心ふれあうひとときをもつきっかけをつくる →P31
④ ヤングアダルト(中高生)を対象とした企画事業	: 図書館利用の少ない層を対象とした、企画展示、講座等を実施する →P31
⑤ 青少年体験事業の実施	: 青少年が体験活動により協調性や自立心を学ぶ機会を設ける →P32
⑥ 子育て勉強会・育児相談の実施	: 保護者が子育てに関する悩みや不安を解消するための機会を設ける →P32
⑦ 「朗人大学」の開催	: 幅広い分野の教養を学び、新たな仲間や生きがいがいづくりのきっかけをつくる →P33
⑧ 健康体操教室の開催	: 市民が健康づくりを考えるきっかけをつくる →P33
① 学芸員研修会の開催	: 学芸員が専門知識を学ぶ機会を設けることで施設利用者の満足度を高める →P35
② 図書館職員研修	: 図書館職員が専門知識を学ぶことで施設利用者の満足度を高める →P35
③ 施設連携事業の実施	: 事業を実施し施設相互の連携を向上させ、施設利用者の満足度を高める →P36
④ 出前(コンパクト)展示の実施	: 調査研究活動の成果や、収集してきた資料や情報などが、市民等の目に触れる機会を増やす →P36
⑤ 交流学習センターの利便性向上	: 施設の利便性を向上させることで利用者数を向上させる →P37
⑥ 音響照明スタッフ・レセプションの活用	: 各種スタッフ登録者の技能を生かして、利用者の満足度を高める →P37
① 公民館、交流学習センター等の会議室の Wi-Fi 環境拡充	: 快適なインターネット環境の提供 →P38
② 博物館・美術館の展示環境の改善	: 誰もが博物館・美術館に親しめるよう、わかりやすい展示、快適な鑑賞環境整備を行う →P38
③ 必要・十分な量の図書館資料の整備	: 図書館資料を適切に収集・管理・提供することで、自ら学び向上する心を育む →P39

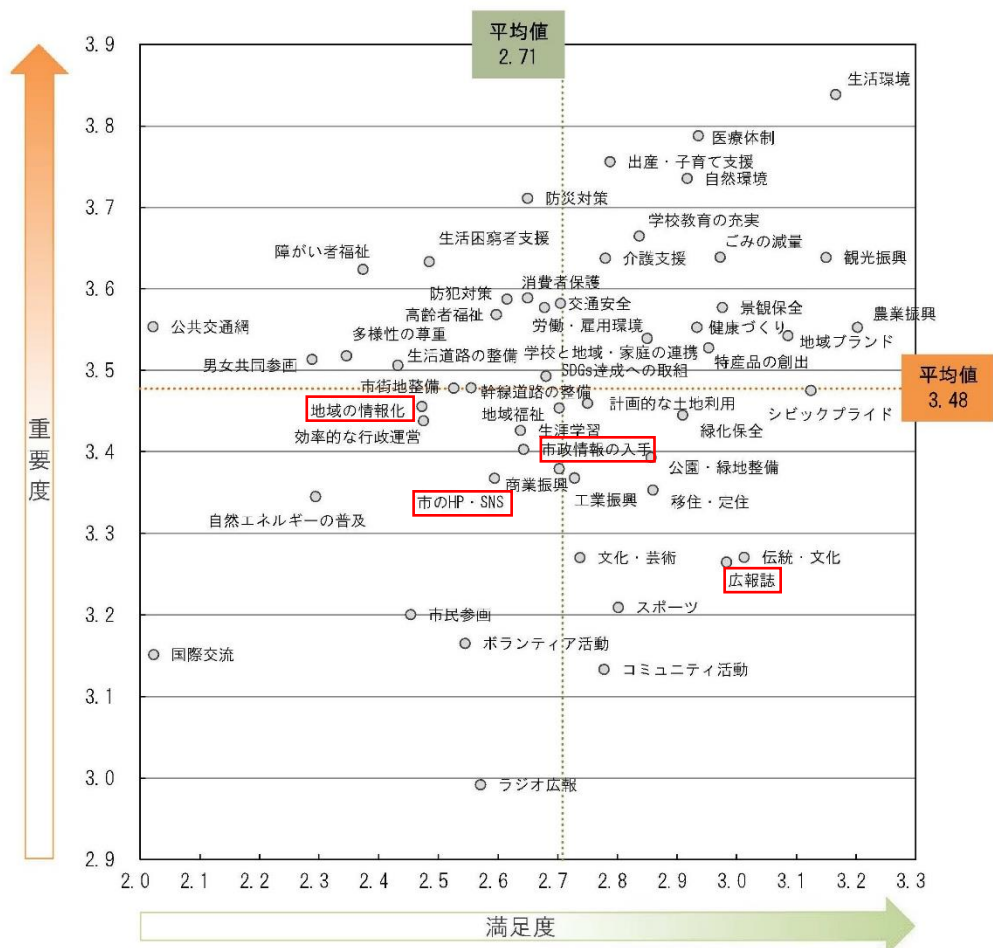
4.1.1 生涯学習に取り組みやすい環境づくり

(1) 情報の発信・提供

<現状・課題と方向性>

生涯学習に取り組みやすい環境づくりを進めるうえで、広く市民の皆さんに生涯学習に関する情報提供することは行政に求められる最も重要な役割の一つです。

令和4（2022）年度の市民意識調査の結果によると、「地域の情報化」や「市政情報の入手」、「市のHP・SNS」は、相対的に重要度が高く満足度が低い状況です。生涯学習に関する情報の発信や提供手段のさらなる工夫が求められます。他方、満足度の高い広報誌については、今後も継続して情報発信の有用な手段としての活用が期待されます。



注) 市の施策 17 分野 52 項目について、「現状の満足度」と「今後の重要度」の各選択肢に点数（満足している・重要である：4、まあ満足している・やや重要である：3、やや不満である・あまり重要でない：2、不満である・重要でない：1）を設定し、その点数の総和を回答数で除くことで施策ごとの「現状の満足度」、「今後の重要度」を算出している。

<グラフの読み方>

満足度（横軸）：市の各施策に対する、住民の現状での満足度。高いほど（右にあるほど）住民からの満足度が高い。

重要度（縦軸）：住民が考える各施策の重要度。高いほど（上にあるほど）、今後重点的に取り組むことを望む住民が多い。

出典：令和4年度市民意識調査

分野ごとの市の施策の満足度×重要度の分析

OSDGsの17の目標のうち特に関連する施策



※SDGsの17の目標のうちすべてに関連する施策：SDGs

○共生社会づくり条例に特に関連する施策：共生社会

○With/After コロナの時代に特に対応した施策：コロナ対応

<施策内容>

① 冊子『安曇野市生涯学習情報「Link（リンク）」』



生涯学習に関して、市民にとって必要かつ有益な情報を整理し、一定期間、情報の有効性を保てる内容を厳選してとりまとめた冊子『安曇野市生涯学習情報「Link（リンク）」』を発行します。

既存の生涯学習の活動内容や多様な市民のニーズを踏まえ、生涯学習の取組を喚起できるような冊子を目指します。

できる限りの多くの市民の手に行き渡る配布方法を選択します。印刷物としてだけでなく、電子データにして市のホームページ等でも閲覧できるようにします。

目 標：市民が生涯学習情報を一括して入手できるようにする

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

【凡例】
施策対象として重視している
度合いにより各世代の背景を
3段階で色分けしています。
□ < □ < □

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	発行部数	1,804部	1,900部	
成果指標	残部数	204部	155部以下	

【参照】
施策指標、成果指標の設定意図
と活用については56ページ(第
5章 5.2)をご参照ください。

② 公民館報の発行



生涯学習活動の一貫である公民館活動の内容やその成果をとりまとめた公民館報を定期的に発行します。

目 標：市民に公民館活動の内容や成果を見てもらうことで、学習意欲を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	認知度	68%	75%	
成果指標	アンケート満足度	73.6%	75%	「満足」・「まあ満足」の 合計比率

③ インターネットを活用した情報発信



コロナ
対応

『広報あづみの』や回覧板による生涯学習情報の提供を補完する手法として、インターネットを有効活用し、市のホームページによる情報提供の充実を図るとともに、SNSを用いた情報提供にも取り組み、とくに若い世代に向けた生涯学習情報の発信力の強化に努めます。

これにより、情報発信媒体の多様性を確保し、生涯学習の内容に応じて、適切かつ効果的な情報発信手段を選択します。

目 標：市民が多様な媒体から生涯学習情報を得られるようにする

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	投稿回数（ツイッター）	1回	50回	
成果指標	いいね数＋リツイート数	4回	250回	

④ SNS 上でのコミュニティ創出のきっかけづくり



コロナ
対応

知人からの紹介いわゆる口コミによる情報拡散力に着目し、インターネット上で同様の効果を有する SNS を活用して、生涯学習に関する情報コミュニティの場をつくることを促進します。

現状でも、例えば県のシニア大学では参加者同士が SNS 上のコミュニティで日常的に情報交換を行っていることなどから、遠距離で気軽に集まることのできない仲間同士が場所を選ばず気軽に情報交換できる場として、この取組は若い世代に限らず、全世代に展開します。またその際、SNS 上での個人情報保護や人権の視点に配慮した運用についての注意・喚起にも努めます。

目 標：市民同士が情報交換・交流する場（その他発表の場・人材育成の場）のきっかけをつくる

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	SNS 上のコミュニティ活用方法紹介回数	—*	12回	
成果指標	コミュニティ創出数	—*	5グループ	
	SNS 上のコミュニティ活用方法紹介人数	—*	120人	

※施策未実施

(2) 妨げ要因への対応

＜現状・課題と方向性＞

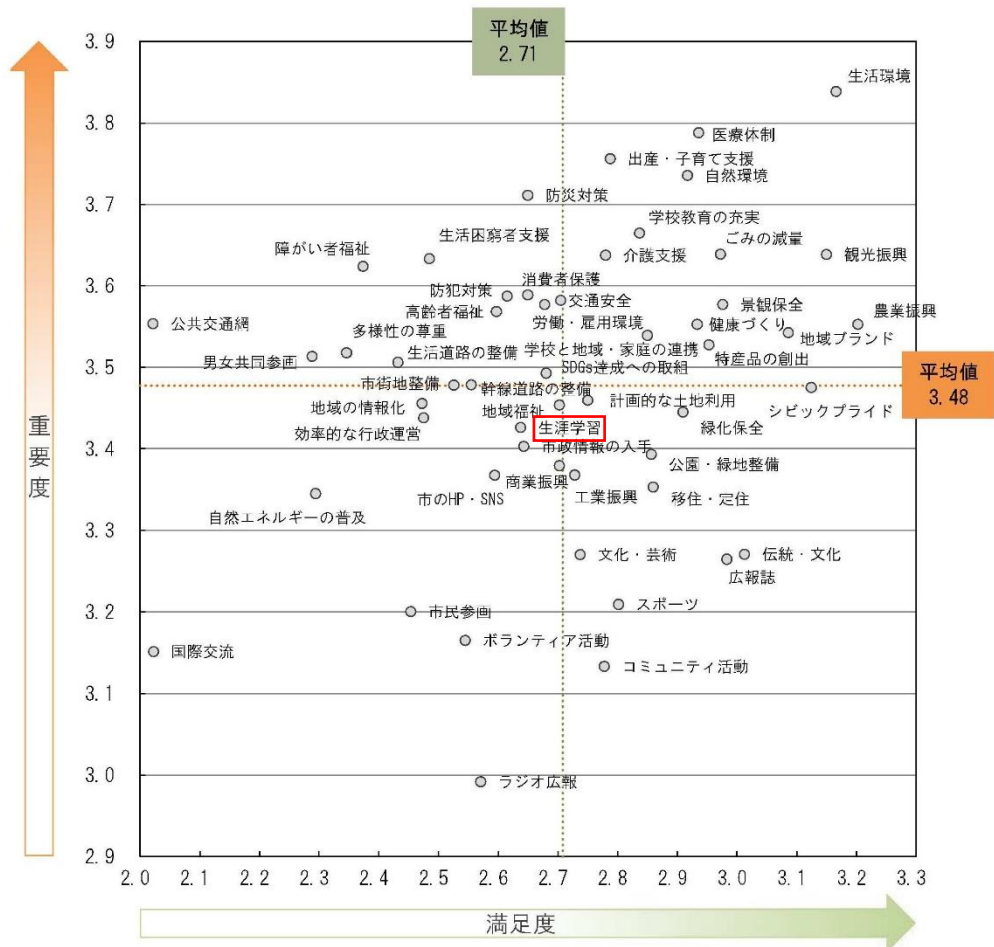
令和4（2022）年度の市民意識調査の結果では、「生涯学習」の施策に対する重要度と満足度は相対的には平均値付近に位置しています。そうしたなかで、生涯学習での「年代に関わらず、学びの機会が提供されている」かの回答では、平成28（2016）年度との比較で満足度は0.29ポイント上昇しており、一定の取組効果もみられます。その一方で、重要度も0.11ポイント上昇しており、今後も、職業や言語の違い、障がいの有無なども考慮し、様々な生涯学習の妨げ要因の解消を図りながら施策展開を図る必要があります。

「生涯学習」の満足度・重要度の平成28（2016）年度との比較

分野:教育・学習

施策名:年代に関わらず、学びの機会が提供されている

	H28(2016)		R4(2022)	ポイント差
満足度	2.35	→	2.64	0.29
重要度	3.32	→	3.43	0.11



注) 市の施策17分野52項目について、「現状の満足度」と「今後の重要度」の各選択肢に点数（満足している・重要である：4、まあ満足している・やや重要である：3、やや不満である・あまり重要でない：2、不満である・重要でない：1）を設定し、その点数の総和を回答数で除くことで施策ごとの「現状の満足度」、「今後の重要度」を算出している。

＜グラフの読み方＞

満足度（横軸）：市の各施策に対する、住民の現状での満足度。高いほど（右にあるほど）住民からの満足度が高い。

重要度（縦軸）：住民が考える各施策の重要度。高いほど（上にあるほど）、今後重点的に取り組むことを望む住民が多い。

出典：令和4年度市民意識調査

分野ごとの市の施策の満足度×重要度の分析

<施策内容>

① 講座開催日時の工夫



共生
社会

コロナ
対応

講座の開催は、日中・平日だけでなく、夜間や土日などテーマに応じて時間帯や曜日設定を変えたり、同じテーマでも複数回開催するなどの工夫をして、仕事や家事で忙しい方がより多く生涯学習に参加できる環境づくりに努めます。

目 標：仕事で忙しい人でも生涯学習に参加できる環境をつくる

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

	指標項目	R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	参加者数（夜間、土日に開催した講座数）	1,433 人	1,500 人	
成果指標	受講者のうち働く世代の講座参加率（働く世代＝25～64 歳対象）	—※	30%	

※未調査のため

② 公民館講座の開催



共生
社会

参加したい講座があっても、開催場所が自宅から遠く移動手段がないため参加できないという方を念頭に、身近な地区公民館で開催する講座の充実を図り、自家用車を運転できない交通弱者の方が講座に参加できる機会を増やします。

目 標：交通手段がない人でも身近な施設で生涯学習に参加できる機会をつくる

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

	指標項目	R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	講座開催数	169 回	200 回	
	参加者数（地区公民館）	2,593 人	3,000 人	
成果指標	受講者のうち交通手段のない人の講座参加率	—※	10%	

※未調査のため



③ 「電子申請サービス」の活用

「電子申請サービス（各種申請や届出のオンラインサービス）」では、地域や市町村の生涯学習振興や生涯学習によるまちづくりを支援する指導者養成講座等の申込みを、インターネット上の簡便な手続きで行うことができます。

今後の生涯学習の推進を担っていく世代を中心に、同サービスの存在を周知するとともに、講座への参加を促して人材育成につなげます。

目 標：市民が気軽に生涯学習に参加できる環境をつくる

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

	指標項目	R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	サービス活用数	—※	10回	
成果指標	サービス利用人数	—※	300人	

※施策未実施のため

④ 子どもの読書活動の推進



共生
社会

地域の図書館などで、読書しやすい環境の整備や、読書の楽しさを伝える取組の充実を図り、子どもの自主的な読書活動を促します。また、多言語で書かれた資料や、点字、LLブック^{巻末13}などの収集と提供を行い、誰でも読書活動ができるよう支援します。

目 標：子どもが自主的に読書活動を行うことができる環境整備を図る

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

関連計画：図書館基本計画

	指標項目	R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	児童書の蔵書数	130,700冊	140,000冊	
成果指標	児童書貸出冊数	316,221冊	340,000冊	



⑤ 託児サービスの提供



小さなお子さんをお持ちの方でも積極的に生涯学習に参加できるよう、とくに子育て世代を対象にしたテーマの講座を開催する際に、安心してかつ気軽に利用できる託児サービスの充実を図ります。

目 標：子育て中でも生涯学習に参加できる環境をつくる

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担 当 課：子ども家庭支援課

関連計画：安曇野市子ども・子育て支援事業計画

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	利用件数	1件	10件	
成果指標	講演会参加等による依頼件数	1件	10件	



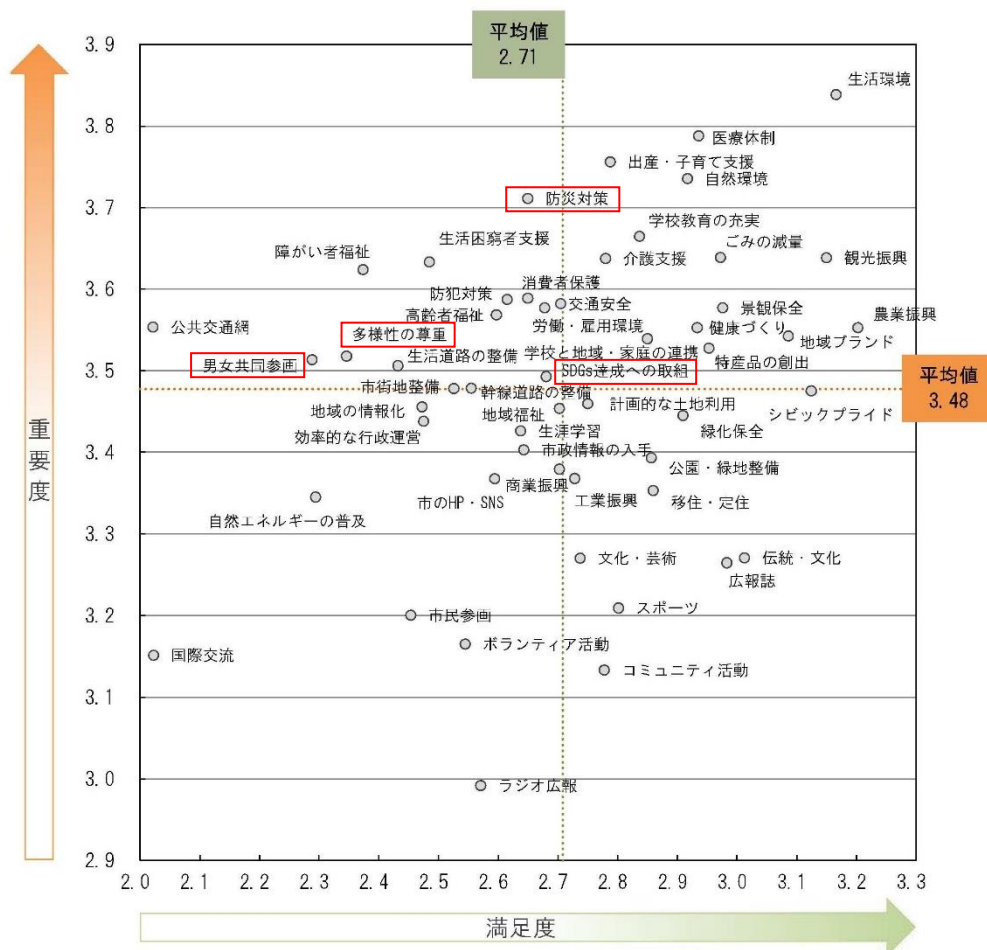
4.1.2 生涯学習の機会の提供

(1) 分野に応じた学習機会

<現状・課題と方向性>

生涯学習の内容は極めて幅が広く多種多様な分野・テーマがあることから、各分野・テーマの施策に対する市民の評価等も踏まえて、ニーズに基づく学習機会の提供を図る必要があります。

現状の施策に対する市民の評価は、令和4（2022）年度の市民意識調査の結果から、相対的に重要度の高い項目がみえてくるなかで、とくに「多様性の尊重」や「男女共同参画」、「防災対策」や「SDGsの達成への取組」などをテーマにした学習機会の確保に努めていくことが求められます。



注) 市の施策 17 分野 52 項目について、「現状の満足度」と「今後の重要度」の各選択肢に点数（満足している・重要である：4、まあ満足している・やや重要である：3、やや不満である・あまり重要でない：2、不満である・重要でない：1）を設定し、その点数の総和を回答数で除くことで施策ごとの「現状の満足度」、「今後の重要度」を算出している。


<グラフの読み方>

満足度（横軸）：市の各施策に対する、住民の現状での満足度。高いほど（右にあるほど）住民からの満足度が高い。
重要度（縦軸）：住民が考える各施策の重要度。高いほど（上にあるほど）、今後重点的に取り組むことを望む住民が多い。

出典：令和4年度市民意識調査

分野ごとの市の施策の満足度×重要度の分析

<施策内容>

① 人権に関する講座の開催  共生社会

人権についての固定観念やこれまでの学習方法を振り返り、正しく学べる講座を開催して、一人ひとりが当事者として学び合える機会をつくります。

目 標：市民が人権について学ぶ機会を設ける

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

関連計画：安曇野市人権教育・啓発推進計画

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	開催数	32回	50回	
	参加者数（人権に関する学習会や研修会、講演会等）	586人	1000人	
成果指標	アンケート満足度	90%	90%	「満足」・「まあ満足」の合計比率

② ICT 関連講座の開催  

日進月歩で進化し続ける IT^{巻末7} や ICT について、市民が学べる機会を設け、適切な利用や有効な活用方法を学べる機会を設けます。

目 標：市民が IT や ICT の専門的な知識について学ぶ機会を設ける

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	参加者数	208人	230人	
成果指標	アンケート満足度	88%	90%	「満足」・「まあ満足」の合計比率



③ 日本語教室の開催



外国籍市民等（国籍が日本以外の市民のほか、新たに日本国籍を取得した人や日本人との国際結婚による子ども等を含む。）に対し、日常生活で使用する日本語と共に、日本のルール、習慣や文化の違いを学ぶ機会を提供します。

目 標：外国籍市民等と地域住民が「やさしい日本語」^{巻末8}や「文化の違い」を理解することで、お互いを尊重し、安心して暮らしていけるよう、多文化共生社会の実現を目指す

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

関連計画：安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり計画

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	開催数	112回	160回	
	参加者数	367人	1,300人	
成果指標	アンケート満足度	—※	80%	「満足」・「まあ満足」の合計比率

※未調査のため



④ 図書館講座等の開催

学びの拠点として図書館の有効利用を促すために、市民のニーズに合わせて学習支援や調査研究支援のための講座や講演会等を開催します。

目 標：市民のニーズに合わせた学習支援、調査研究支援のために講座、講演会等を開催する

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

関連計画：図書館基本計画

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	開催数	23回	25回	
	参加者数	2,467人	4,000人	
成果指標	アンケート満足度	99%	90%	「満足」・「まあ満足」の合計比率

⑤ 博物館・美術館・文書館等講座の開催

市民が自然・考古・歴史・民俗・美術等の諸分野を学べる機会として、博物館や文書館等における講座を開催します。

目 標：市民が自然・考古・歴史・民俗・美術等の諸分野を学べる機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：文化課

関連計画：文化振興計画

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	開催数	135 回	140 回	
成果指標	参加者数	5,134 人	5,200 人	

⑥ 芸術公演・講習会の開催

コロナ
対応

市民が感性を磨き、知識を得て、生涯学習活動のきっかけをつかむ機会として、多種多様な芸術公演や講習会を開催します。

目 標：市民に多種多様な学びの場を提供するためコンサートやワークショップ^{巻末 14}を開催する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：文化課

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	開催数	7 回	7 回	現状維持を目標とする。
	参加者数（小規模なコンサートや WEB 配信を実施）	692 人	1,000 人	
成果指標	アンケート満足度	89%	90%	「満足」・「まあ満足」の合計比率



⑦ 鑑賞機会の充実

市民が様々な芸術を鑑賞できる機会の充実を図るために、美術館や交流学習センターにて各種展覧会を実施します。

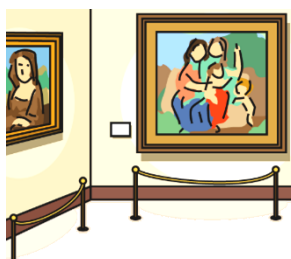
目 標：市民の芸術鑑賞機会の充実のため、各種展覧会を実施する

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

関連計画：文化振興計画

	指標項目	R3実績値	R9目標値	備考
施策指標	特別展の開催数	6回	7回	
成果指標	特別展の参加者数	8,026人	15,000人	



⑧ 共生社会づくりフォーラムの開催

SDGs

共生
社会

コロナ
対応

市民が共生社会づくりについて学べる機会として、共生社会づくりフォーラムを開催します。

目 標：市民が共生社会づくりについて学ぶ機会を設ける

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：人権共生課

関連計画：安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり計画

	指標項目	R3実績値	R9目標値	備考
施策指標	参加者数(オンライン受講者を含む)	61人	70人	
成果指標	アンケート満足度	26%	80%	「満足」・「まあ満足」の合計比率



⑨ 共生社会づくりのための講座の開催

SDGs

共生
社会

コロナ
対応

市民が共生社会づくりについて考える機会として、様々な講座を開催し、地域の活動を支援します。

目 標：市民が共生社会づくりを考える機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：人権共生課

関連計画：安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり計画

	指標項目	R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	参加者数(オンライン受講者を含む)	34 人	150 人	
成果指標	アンケート満足度	92%	90%	「満足」・「まあ満足」の合計比率

⑩ 環境講座の開催



コロナ
対応

豊かな自然環境に恵まれた本市の特性を生かし、市民が環境や景観について学べる講座の充実を図ります。

目 標：市民が環境について学ぶ機会を設け、環境への意識を高める

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：環境課

施策指標：開催数、参加者数

成果指標：アンケート満足度

関連計画：環境基本計画

	指標項目	R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	参加者数	162 人	200 人	
成果指標	アンケート満足度	91%	95%	「満足」・「まあ満足」の合計比率

⑪ スポーツ教室の開催

スポーツの初心者や未経験者が新たにスポーツに取り組むきっかけづくりとして、様々なスポーツ教室を開催します。一方で、その指導者となる人材の育成を支援するための講座も検討します。併せて、スポーツを楽しむ環境の充実に資する施策の一つとして自転車を活用したまちづくりを推進していきます。

また、ANC アリーナ等において、国内トップレベルの競技大会開催やホームタウンチームの試合観戦・応援・ボランティア活動などを通じて、スポーツを見て楽しみながら学べる機会の充実に資するとともに、「安曇野市スポーツ大使」などトップアスリートと交流する機会を拡充します。

目 標：スポーツ初心者や未経験者が運動する機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：スポーツ推進課

関連計画：スポーツ推進計画

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	開催数	15 回	25 回	
	参加者数	4,166 人	4,300 人	
成果指標	教室参加者アンケート満足度	90%	90%	「満足」・「まあ満足」の合計比率

⑫ 防災啓発活動の支援



大規模な地震や土砂災害、豪雨など、近年頻発化・激甚化している災害への意識の高まりを受け、生涯学習の一貫として、防災や減災に対する啓発を行う機会を設けます。

目 標：市民の防災意識を高める機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：危機管理課

関連計画：地域防災計画

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	実施回数（防災関係機関と地域住民が相互に連携した訓練実施）	1 回	2 回	
成果指標	出前講座開催回数（出前講座が利用された回数）	22 回	25 回	

⑬ 災害時福祉避難スペース設置訓練



災害時における福祉避難スペースの設置訓練を実施し、要配慮者への対応方法を学ぶための機会を設けます。

目 標：市民が災害時の要配慮者の対応方法について学ぶ機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：福祉課

関連計画：地域福祉計画

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	訓練回数（市指定避難所開設訓練に合わせて実施）	1 回	1 回	市の指定避難所開設訓練の中で年 1 回福祉避難スペース設置訓練を行っている。
成果指標	訓練参加者数（参加希望した自主防災組織代表者等の参加した割合）	28%	80%	

⑭ 協働のまちづくり出前講座の開催



市民が生涯学習に対する意欲と市政への関心を高め、生涯学習の成果を生かして協働のまちづくりにも役立てるための出前講座を開催します。

目 標：市民が生涯学習に対する意欲と市政への関心を高める機会を設ける

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：地域づくり課

関連計画：協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	開催数（新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じて実施）	60 回	80 回	
成果指標	アンケート満足度	94%	94%	「とても良かった」・「まあ良かった」の合計比率

(2) 年代に応じた学習機会

<現状・課題と方向性>

学習機会の提供を図るうえでは、各年代のニーズに応じて興味や関心をひく内容やテーマ設定が求められます。

令和4（2022）年度の市民意識調査の結果からは、世代によって学びたいと思う分野や関心のあるテーマに違いがあることが読みとれます。

特徴的なところでは、18～20代から50代では「職業上必要な知識・技能・資格」や「外国語の学習」への関心が高い一方、60代以上では関心が低くなっています。逆に「健康づくり」は年齢層が上がるにつれて関心が高くなっています。また、18～20代から30代は「マネー・ライフプラン」への関心が高い傾向がみられます。こうした結果を踏まえて、対象者にとって関心の高いテーマや内容で学習機会の提供を図っていく必要があります。

生涯学習として新たに学びたい内容（年代別）

	合計 (n=659)	18～20代 (n=51)	30代 (n=65)	40代 (n=127)	50代 (n=129)	60代 (n=165)	70代以上 (n=117)
健康づくり	47.8%	23.5%	35.4%	43.3%	41.9%	60.0%	59.0%
趣味などその他	36.9%	35.3%	26.2%	32.3%	38.0%	43.0%	37.6%
パソコン、インターネット	23.7%	25.5%	29.2%	22.8%	22.5%	21.8%	24.8%
スポーツ	21.7%	33.3%	24.6%	29.9%	25.6%	16.4%	10.3%
外国語の学習	20.9%	25.5%	36.9%	25.2%	24.0%	15.8%	9.4%
身近な自然環境や地域環境の保全	19.7%	13.7%	21.5%	9.4%	21.7%	20.0%	30.8%
芸術	19.6%	21.6%	26.2%	14.2%	19.4%	21.2%	19.7%
職業上必要な知識・技能・資格	18.4%	33.3%	32.3%	22.0%	24.0%	7.9%	8.5%
安曇野市の歴史や風土	16.1%	15.7%	15.4%	11.0%	14.0%	18.2%	21.4%
マネー・ライフプラン	16.1%	35.3%	26.2%	20.5%	17.1%	9.1%	6.8%
ボランティア	15.2%	9.8%	15.4%	11.8%	16.3%	17.6%	14.5%
防犯、防災	14.7%	17.6%	20.0%	15.7%	16.3%	10.9%	13.7%
地域づくり	11.2%	7.8%	18.5%	15.7%	7.0%	8.5%	12.8%
子育て、教育	9.4%	17.6%	33.8%	14.2%	2.3%	1.8%	5.1%
ガイドや指導者として人に伝える技術	4.7%	7.8%	7.7%	3.9%	4.7%	3.6%	4.3%

出典：令和4年度市民意識調査

<施策内容>

① 博物館・美術館における親子向け事業の実施

親子で参加できるイベントとして、博物館や美術館で歴史資料や美術品に見て・触れて・体験できる機会を設け、市内公共施設の魅力向上や楽しむための手助けにつながる事業を展開します。

目 標：親子が歴史資料や美術品に触れられる機会を設ける

市内の公共施設等へのアウトリーチ^{巻末9}を行う

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

関連計画：文化振興計画

指標項目		R3実績値	R9目標値	備考
施策指標	開催数	8回	12回	
成果指標	参加者数	502人	600人	

② 「おはなしかい」等の定期開催

親子で本に親しんでもらう機会として「おはなしかい」等を定期的で開催します。

目 標：親子で本に親しんでもらう機会を設ける

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

関連計画：図書館基本計画

指標項目		R3実績値	R9目標値	備考
施策指標	開催数	111回	120回	
	参加者数	1,386人	2,000人	
成果指標	アンケート満足度	100%	90%	「満足」・「まあ満足」の合計比率

③ ブックスタート・セカンドブック^{巻末10}事業の実施

4か月と2歳の子どもを対象に絵本をプレゼントするとともに、親子が絵本を介して心ふれあう機会をつくるきっかけとなるよう、読み聞かせの大切さや選書などの相談、おはなしかいや講座などの紹介も行います。

目 標：親子が絵本を介して心ふれあうひとときをもつきっかけをつくる

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

関連計画：図書館基本計画

指標項目		R3実績値	R9目標値	備考
施策指標	図書配布率	97.6%	100%	
成果指標	アンケート満足度	—*	80%	「満足」・「まあ満足」の合計比率

※未調査のため



④ ヤングアダルト（中高生）を対象とした企画事業

現状において図書館利用の少ないヤングアダルト（中高生）を対象に、企画展や講座等を実施して図書館利用を促し、生涯学習のきっかけをつくります。

目 標：図書館利用の少ない層を対象とした、企画展示、講座等を実施する

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

関連計画：図書館基本計画

指標項目		R3実績値	R9目標値	備考
施策指標	開催数	1回	3回	
成果指標	アンケート満足度	100%	90%	「満足」・「まあ満足」の合計比率

⑤ 青少年体験事業の実施

青少年が体験活動を通じて、協調性や自立心を学べる機会として、青少年体験事業を実施します。

目 標：青少年が体験活動により協調性や自立心を学ぶ機会を設ける

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：子ども家庭支援課

	指標項目	R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	参加者数	308人	800人	
成果指標	アンケート満足度	96%	96%	「満足」・「まあ満足」の合計比率

⑥ 子育て勉強会・育児相談の実施



子育て中の保護者の悩みを共有し、不安の解消を図るとともに、よりよい子育てをみんな考えていく機会として、子育て勉強会や育児相談を実施します。

目 標：保護者が子育てに関する悩みや不安を解消するための機会を設ける

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：子ども家庭支援課

関連計画：安曇野市子ども・子育て支援事業計画

	指標項目	R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	開催数	13回	15回	
成果指標	参加者数	218人	250人	



⑦ 「朗人大学」の開催

学びを通して仲間をつくりながら、幅広い分野の知識や技術などを身に付けられる場として、年間で受講できる「朗人大学」を開催します。

目 標：幅広い分野の教養を学び、新たな仲間や生きがいのきっかけをつくる

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：高齢者介護課

関連計画：老人福祉計画及び介護保険事業計画

	指標項目	R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	新規受講者数	37人	37人	
成果指標	アンケート満足度	77%	80%	「満足」・「まあ満足」の合計比率

⑧ 健康体操教室の開催



コロナ
対応

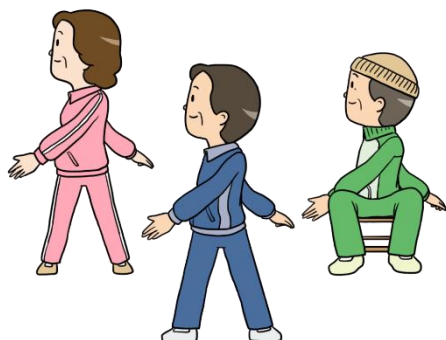
市民に健康づくりの取組を促し、健康づくりについて考えるきっかけをつくるために、健康体操教室を開催します。

目 標：市民が健康づくりを考えるきっかけをつくる

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：健康推進課

	指標項目	R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	開催数	54回	54回	
	参加者数	634人	660人	
成果指標	参加者の体重減	△2.7kg	△2.7kg	



4.1.3 利用満足度の高い施設運営

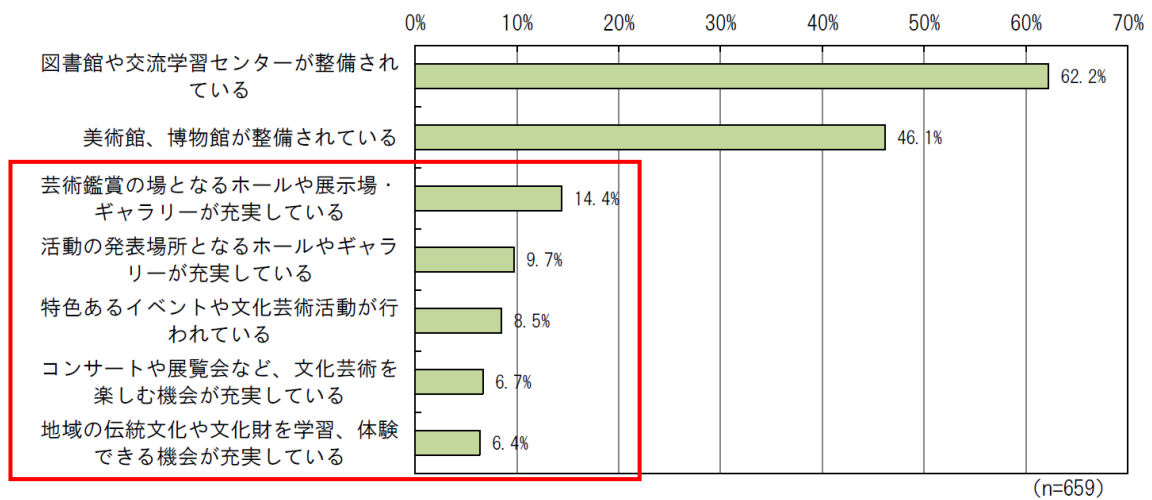
(1) 施設の運営

<現状・課題と方向性>

市民が生涯学習を行っている施設には、公民館、図書館、体育館、交流学習センター、運動場・グラウンド、その他施設、美術館、公園、博物館・資料館など様々な種類があります。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により令和2（2020）年度はほとんどの施設で利用者数が大きく減少しましたが、令和3年（2021）度には回復基調がみられます。

また、平成30（2018）年度には三郷地域に交流学習センター「ゆりのき」が開設され、より多くの人に学習を取り組める施設を提供できるようになりました。

一方で、令和4（2022）年度の市民意識調査の結果では、「安曇野市の文化芸術環境の特徴」として施設の整備に対する評価が高い一方、活動や体験機会の充実度に対する評価は低い傾向にあります。現状でも運営上の工夫により、既存の施設の満足度を高められる余地は十分にあるため、各施設に関わる人材の育成を図りながら、利用者に提供するサービスの質を高め、生涯学習の場として利用者増につながる施策展開が求められます。



出典：令和4年度市民意識調査

安曇野市の文化芸術環境の特徴

<施策内容>

① 学芸員研修会の開催

学芸員が専門的な知識を深めるための研修会を開催し、施設利用者の満足度の向上につなげます。

目 標：学芸員が専門知識を学ぶ機会を設けることで施設利用者の満足度を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

関連計画：文化振興計画

指標項目		R3実績値	R9目標値	備考
施策指標	開催数	1回	2回	
成果指標	参加者数	18人	50人	

② 図書館職員研修

図書館職員が専門的な知識を深めるための研修を行い、施設利用者の満足度の向上につなげ、生涯学習のサポーターとしての役割を向上させます。

目 標：図書館職員が専門知識を学ぶことで施設利用者の満足度を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

関連計画：図書館基本計画

指標項目		R3実績値	R9目標値	備考
施策指標	開催数	3回	4回	
成果指標	レファレンス（相談・調査）件数	4,567件	7,280件	



③ 施設連携事業の実施

観光・福祉・教育施設などと連携する事業を通じて、施設相互の連携向上を図り、施設利用者の増加と満足度の向上を図ります。

目 標：事業を実施し施設相互の連携を向上させ、施設利用者の満足度を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

関連計画：文化振興計画

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	開催数	5回	10回	
成果指標	施設利用者満足度	87%	90%	

④ 出前（コンパクト）展示の実施

調査研究活動の成果や、収集してきた資料・情報等が市民をはじめとする多くの人々の目に触れられるよう、コンパクトなかたちでの出前展示を実施し、生涯学習の意欲向上につなげます。

目 標：調査研究活動の成果や、収集してきた資料や情報などが、市民等の目に触れる機会を増やす

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

関連計画：文化振興計画

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	開催数	21回	23回	
成果指標	アンケート満足度	82.4%	90%	「満足」・「まあ満足」の合計比率

⑤ 交流学習センターの利便性向上

生涯学習の中核施設となる交流学習センターのさらなる利便性の向上を図るために、利用者のニーズを随時把握しながら、改善に努めます。

また、施設全体をコーディネートできる人材育成に努めます。

目 標：施設の利便性を向上させることで利用者数を向上させる

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

関連計画：文化振興計画

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	自主事業の実施件数	10回	10回	現状維持を目標とする。
成果指標	貸館件数	1,997件	2,600件	

⑥ 音響照明スタッフ・レセプションの活用

講座や講演会の開催に際し、参加者の満足度を高め、学びの意欲向上につながるよう、音響照明スタッフやレセプション^{巻末 11}など各種スタッフ登録者の技能を生かして、快適な環境をつくり出し、質の高い対応サービスの提供を図ります。

目 標：各種スタッフ登録者の技能を生かして、利用者の満足度を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

関連計画：文化振興計画

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	登録者数	20人	25人	
成果指標	活用回数	128回	170回	



(2) 施設環境の整備

<現状・課題と方向性>

この10年間で生涯学習の場となる施設の新設・改修はかなり進んできましたが、利用者の満足度をより一層高めていくためには、生涯学習として関心の高い分野や、現在の施設の利用状況、ICTの進展など取り巻く環境の変化等を踏まえて、施設の新設も含め、展示内容や設備の改善、資料の充実など施設環境の整備に努めていく必要があります。

<施策内容>

① 公民館、交流学習センター等の会議室のWi-Fi環境拡充



コロナ
対応

各地域の公民館や、交流学習センターなど、生涯学習の拠点施設の会議室におけるWi-Fi(公衆無線LAN)^{巻末12}設備を充実させ、リアルタイムで快適に情報通信できる環境を整えることによって、生涯学習の充実を図ります。

目 標： **快適なインターネット環境の提供**

対象世代： **24歳以下** **25～44歳** **45～64歳** **65歳以上**

担当課：生涯学習課、文化課

指標項目		R3実績値	R9目標値	備考
施策指標	利用可能な会議室数	—*	5室	
成果指標	インターネット接続回数	—*	50回	

※施策未実施のため

② 博物館・美術館の展示環境の改善

市で運営している既存の博物館や美術館における常設展示内容を工夫するなど、わかりやすい展示に向けて継続的な改善を図るとともに、快適な鑑賞環境を整え、市民が学術・芸術・文化に親しめるよう努めます。

目 標： **誰もが博物館・美術館に親しめるよう、わかりやすい展示、快適な鑑賞環境整備を行う**

対象世代： **24歳以下** **25～44歳** **45～64歳** **65歳以上**

担当課：文化課

関連計画：文化振興計画

指標項目		R3実績値	R9目標値	備考
施策指標	小中学生向けの事業件数	18回	20回	
成果指標	小中学生の利用者数	1,556人	1,700人	

③ 必要・十分な量の図書館資料の整備

市民が学ぶ喜びを味わい、学びの楽しさを知り、学びを深めることができる最も身近な施設である図書館の資料の充実に努め、必要・十分な量の図書館資料の整備に努めます。

目 標：図書館資料を適切に収集・管理・提供することで、自ら学び向上する心を育む

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：文化課

関連計画：図書館基本計画

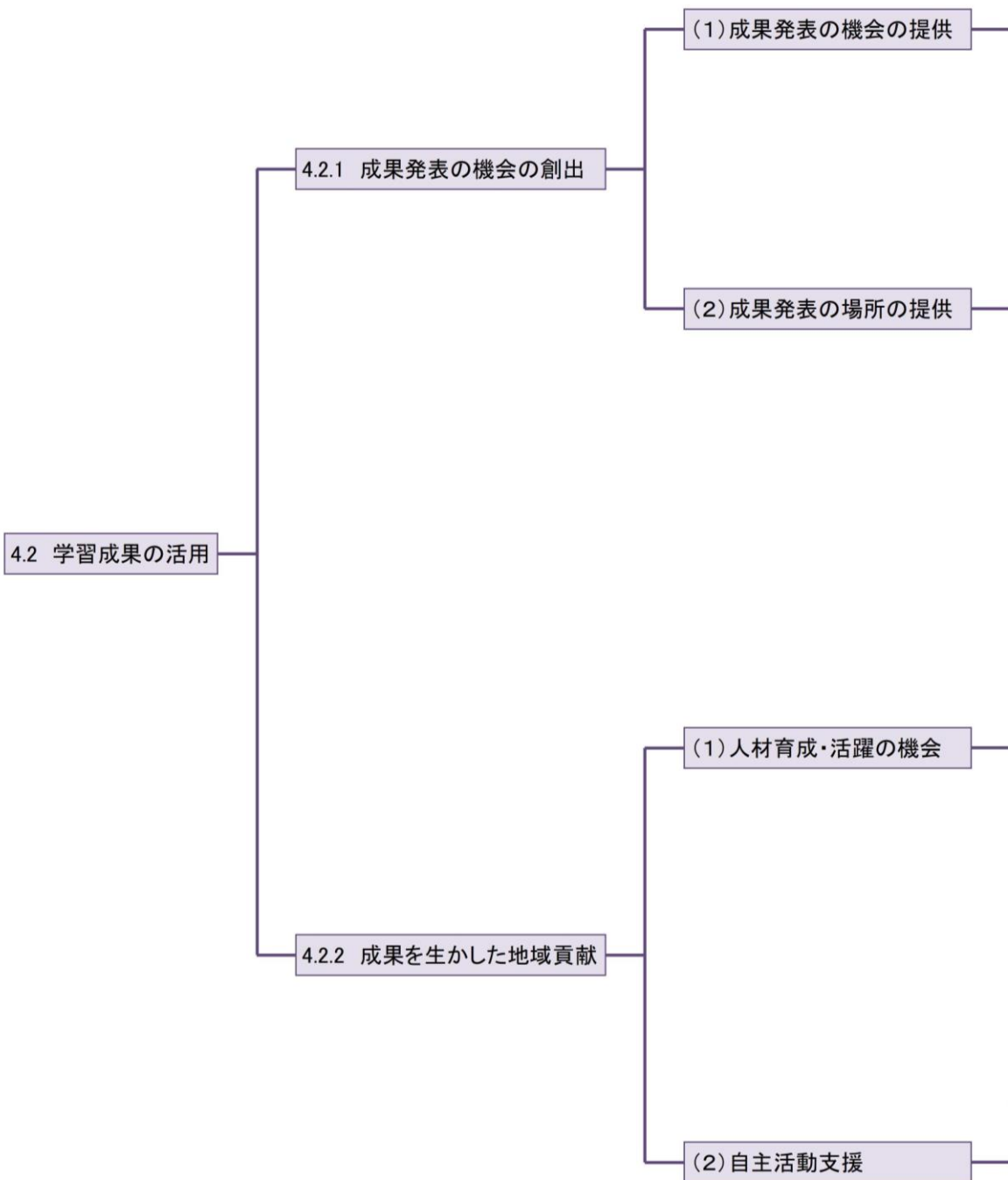
	指標項目	R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	人口一人当たり蔵書数	4.6 冊	5.2 冊	
成果指標	人口一人当たりの貸出冊数	7.85 冊	9 冊	



4.2 学習成果の活用

「学習成果の活用」についての施策展開を系統図（40、41 ページ）にまとめました。生涯学習は学んで終わりではなく、一人ひとりがその学びの成果を生かすことが重要だと考えています。

くまもと県民生活の場として生きる



ライフステージごとに定めたスローガン

【24歳以下の世代】
夢・未来へ 学びで
新しい自分や仲間と
出会おう

【25～44歳の世代】
家族も地域も
みんなで楽しく
学び合おう

【45～64歳の世代】
学びでリフレッシュ！
自分を磨き、社会に
役立てよう

【65歳以上の世代】
学びながら生きる
次代の安曇野人を
育もう

〔施策項目〕と〔施策目標〕は42～53ページの間を示す施策内容と対応しています。

〔施策項目〕	〔施策目標〕
① 地域文化祭の開催	: 市民が日頃の成果を多くの人に見てもらう場を設けることで、活動意欲を高める →P42
② 公募展の開催	: 市民が日頃の成果を多くの人に見てもらう場を設けることで、活動意欲を高める →P43
③ 機関誌等の発行	: 市民が日頃の成果を多くの人に見てもらう機会を設けることで、活動意欲を高める →P43
④ 新進音楽家公開演奏会の開催	: 新進音楽家が技術を競う場と発表の場を設けることで、活動意欲を高める →P44
⑤ 子ども文化祭の開催	: 青少年が日頃の活動の成果を発表し同世代と交流する場を設け、活動意欲を高める →P44
⑥ 環境フェアの開催	: 環境活動団体が日頃の取組の成果を広く発信し、交流する場を設け、活動意欲を高める 来場者が環境フェアでの体験などにより環境への意識を高める →P45
⑦ 市民スポーツ祭の開催	: 市民が日頃のスポーツ活動の成果を競う場を設けることで、活動意欲を高める →P45
① 発表の場としてのホールの活用	: 交流学習センターや公民館ホールを発表の場として市民が活用することで、活動意欲を高める →P46
② 貸スペースの稼働率の向上	: 市民が日頃の成果を見てもらう場所を提供することで、活動意欲を高める →P46
① リーダーバンク制度の活用	: 地域に関する知識や技能を持つ者を登録し、活用する →P47
② 安曇野市コミュニティスクール事業の実施	: 学校と地域の連携・協働を強化することで「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」 の実現を図る →P48
③ 読み聞かせボランティアの育成	: 読み聞かせのボランティアを育成する →P48
④ 朗読協力者(朗読ボランティア)研修会の開催	: 視覚障がい者サービスの推進のため、朗読協力者(朗読ボランティア)の育成をする →P49
⑤ ジュニア・リーダー養成講座の開催	: 大人と子どもの架け橋となり、地域で活躍できる子どもを育成する →P49
⑥ スポーツ指導者講習会の開催	: スポーツ指導者を育成する →P50
⑦ 自主防災会長・自主防災リーダー研修会の開催	: 地域の自主防災組織で活躍できるリーダーを育てる →P50
⑧ 日赤奉仕団活動に伴う訓練、講習会等の開催	: 災害時に奉仕活動ができるリーダーを育てる →P51
⑨ 手話奉仕員養成講座の開催	: 日常会話に必要な手話技術を習得するための手話奉仕員の養成講座を開催する →P51
⑩ 健康づくり推進員の活動拡充	: 健康づくり推進員が地域において活動する →P52
① 自主サークル活動支援	: 市民が継続的な自主活動ができるように支援する →P52
② 図書館ボランティアの活動支援	: 図書館ボランティアが主体的に活動できるよう支援する →P53
③ 市民活動サポートセンターの充実	: 市民活動を支援・促進し、協働を推進する →P53

4.2.1 成果発表の機会の創出

(1) 成果発表の機会の提供

<現状・課題と方向性>

生涯学習には多種多様な活動があるなかで、それぞれに活動する市民や団体が必ずしもその成果を発表する機会に恵まれているとはいえないのが現状です。

生涯学習は他の人にその成果を定期的に見てもらふことで、活動継続のモチベーションや活動を通じて培われる資質・能力の向上にもつながります。またそうした発表の場で、同じ内容を学ぶ者同士が一堂に会し、交流が生まれることにより、有益な情報の共有や仲間づくりにもつながります。さらにはそうした発表の場に観賞のために訪れた参加者が、その活動に取り組むきっかけにもなることも期待できます。

必ずしも大規模な発表の場あるいはそのための発表の場でなくても、多くの人々が集まる既存のイベントなどとタイアップして、様々な生涯学習の活動成果を発表できる機会を積極的に作り出し、活動意欲の向上につなげていく必要があります。

<施策内容>

① 地域文化祭の開催

各地域文化祭や市総合芸術展の開催を継続し、市民に日頃の文化活動の成果を多くの人に見てもらふ場を設けることで、活動に取り組む人々の参加意欲の向上を図ります。

目 標：市民が日頃の成果を多くの人に見てもらふ場を設けることで、活動意欲を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	地域文化祭出演団体数	96 団体	117 団体	
成果指標	来場者アンケートの満足度	94%	95%	「満足」・「まあ満足」の合計比率



② 公募展の開催

多彩な生涯学習の成果を多くの人々に見てもらえる場として、様々なテーマで開催する公募展を継続し、それぞれの活動意欲の向上を図ります。

目 標：市民が日頃の成果を多くの人に見てもらう場を設けることで、活動意欲を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

関連計画：文化振興計画

指標項目		R3実績値	R9目標値	備考
施策指標	開催数	1回	2回	
成果指標	来場者アンケートの満足度	90%	90%	「満足」・「まあ満足」の合計比率

③ 機関誌等の発行

市民の日頃の成果を紹介する機関誌等の発行を促し、多くの人々に見てもらえることで、活動意欲の向上を図ります。

また、新聞やラジオ等のメディアを通じて活動を発信できる機会の確保に努めます。

目 標：市民が日頃の成果を多くの人に見てもらう機会を設けることで、活動意欲を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

関連計画：文化振興計画

指標項目		R3実績値	R9目標値	備考
施策指標	発行件数	4,500部	4,500部	現状維持を目標とする。
成果指標	マスコミに取り上げられた件数	2回	3回	

④ 新進音楽家公開演奏会の開催

新進の音楽家が技量を競い合い、発表する場になっている「あづみの新進音楽家公開オーディション」の開催を継続して、参加者の活動意欲の向上を図ります。

目 標：新進音楽家が技術を競う場と発表の場を設けることで、活動意欲を高める

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：文化課

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	演奏会開催数（新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながら、小規模なコンサートやWEB 配信を実施）	4 回	5 回	
成果指標	参加者数	19 人	30 人	

⑤ 子ども文化祭の開催

青少年が日頃の活動の成果を発表し、同世代と出会う場にもなっている「安曇野市こども文化祭」の開催を継続して、参加者の活動意欲の向上と、学校や地域、年齢の枠組みを超えてつながる仲間づくりを促進します。

目 標：青少年が日頃の活動の成果を発表し同世代と交流する場を設け、活動意欲を高める

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：子ども家庭支援課

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	参加者数	103 人	400 人	
成果指標	参加者来場者アンケートの満足度	—※	80%	「満足」・「まあ満足」の合計比率

※未調査のため



⑥ 環境フェアの開催

環境活動団体が日頃の取組の成果を広く発信し、互いに交流する場になっている「安曇野環境フェア」の開催を継続して、当該団体の活動意欲の向上を図るとともに、来場者の環境に対する意識を高めます。

目 標：環境活動団体が日頃の取組の成果を広く発信し、交流する場を設け、活動意欲を高める

来場者が環境フェアでの体験などにより環境への意識を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：環境課

関連計画：環境基本計画

	指標項目	R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	参加団体数	—※	50 団体	
	来場者数	—※	2,000 人	
成果指標	参加者・出展者アンケート、来場者アンケートの満足度	—※	90%	「満足」・「まあ満足」の合計比率

※R3 施策中止のため

⑦ 市民スポーツ祭の開催

市民が日頃のスポーツ活動の成果を競い合う場となっている「安曇野市民スポーツ祭」の開催を継続し、参加者の活動意欲の向上とスポーツ活動の推進を図ります。

目 標：市民が日頃のスポーツ活動の成果を競う場を設けることで、活動意欲を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：スポーツ推進課

関連計画：スポーツ推進計画

	指標項目	R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	体験イベント及び種目別競技会の延べ参加者数（参加競技種目：17 種目）	132 人	2,250 人	
成果指標	体験イベント参加者アンケートの満足度	—※	80%	「満足」・「まあ満足」の合計比率

※未調査のため

(2) 成果発表の場所の提供

<現状・課題と方向性>

成果発表の機会の提供で述べた現状・課題と方向性と同様に、成果発表の場所の提供もまた重要になります。市内にある屋内外の様々な公共施設や公共的な空間の有効活用を促し、成果発表の場所として積極的に利用してもらうことによって、活動意欲の向上につなげていくことが求められます。

<施策内容>

① 発表の場としてのホールの活用

交流学習センターや各地域の公民館にあるホールを、市民の日頃の活動成果を発表する場としての利用を促し、活動意欲の向上を図ります。

目 標：交流学習センターや公民館ホールを発表の場として市民が活用することで、活動意欲を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課、文化課

	指標項目	R3実績値	R9目標値	備考
施策指標	体験利用の機会の実施回数	1回	5回	
成果指標	ホール利用申込件数	1,310件	1,670件	

② 貸スペースの稼働率の向上

市有施設の有効活用を図り、市民の日頃の成果を見てもらう場としての利用を促し、活動意欲の向上につなげます。

目 標：市民が日頃の成果を見てもらう場所を提供することで、活動意欲を高める

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

関連計画：文化振興計画

	指標項目	R3実績値	R9目標値	備考
施策指標	市民参加型企画の実施件数	3回	4回	
成果指標	貸し出し件数	1,977件	2,600件	

4.2.2 成果を生かした地域貢献

(1) 人材育成・活躍の機会

<現状・課題と方向性>

生涯学習の成果を他の人に発表するだけでなく、地域貢献に生かしていくことは、その活動に取り組む人にとって、より大きな活動継続のモチベーションにつながるだけでなく、本市のまちづくりや地域社会の発展のためにも有益です。

性別や世代によって関心のあるテーマが異なることも考慮しながら、生涯学習の成果を地域貢献につなげられるような人材育成や活躍の機会の創出を図っていくことが求められます。

<施策内容>

① リーダーバンク制度の活用

スポーツや芸術など各分野に精通している方を人材として登録しているリーダーバンク制度を生かして、とくに地域の自然や考古、歴史、民俗等の成り立ちに関する知識を有する人材の登録を促し、地域の魅力を人々にわかりやすく伝えられるガイドや、地域づくりを主導できるリーダーとして育成するための講座やプログラムの充実を図ります。

目 標：地域に関する知識や技能を持つ者を登録し、活用する

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：生涯学習課

指標項目		R3実績値	R9目標値	備考
施策指標	登録者数	65件	70件	
成果指標	問い合わせ件数	1件	10件	

② 安曇野市コミュニティスクール事業の実施



地域の方が委員として学校運営に関わる「学校運営協議会」と学校と地域がともに行う「地域学校協働活動」を一体的に推進し、地域ぐるみで子どもたちを育てる仕組みづくりに取り組みます。

目 標：学校と地域の連携・協働を強化することで「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の実現を図る

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：学校教育課、生涯学習課

関連計画：安曇野市教育大綱・学校運営計画

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	学校と地域による地域学校協働活動校数。学校運営協議会での目標・ビジョンの共有（会議開催数）	—*	17 校 17 回	
成果指標	地域学校協働本部連絡会の仕組みを生かして、地域との協働による活動を行った学校数。教職員及び保護者の学校評価における評価結果	—*	17 校 学校評価	

※施策が R4 開始のため

③ 読み聞かせボランティアの育成

想像力や言語能力の向上、感情を豊かにするなどの効果が期待される読み聞かせボランティアの育成を図ります。

目 標：読み聞かせのボランティアを育成する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：文化課

関連計画：図書館基本計画



指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	開催数	2 回	3 回	
	参加者数	9 人	30 人	
成果指標	おはなしサポーター ^{巻末 15} 登録数	16 人	20 人	

④ 朗読協力者（朗読ボランティア）研修会の開催



視覚に障害のある利用者、音訳や対面朗読等の障がい者サービスを提供できるよう、朗読協力者の育成を進めます。

目 標：視覚障がい者サービスの推進のため、朗読協力者（朗読ボランティア）の育成をする

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：文化課

関連計画：図書館基本計画

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	開催数	10 回	10 回	内容を充実させる。
成果指標	朗読協力者登録者数	15 人	25 人	

⑤ ジュニア・リーダー養成講座の開催

ジュニア・リーダー養成講座の開催を継続して、大人と子どもの架け橋となって地域で活躍できる子どもの養成を図ります。この講座では長期的な視点で、段階的に育成できるプログラムを実施するとともに、実際に地域で活躍できる場面をつくり、地域の人々に活動内容や講座の成果を伝えられるように努めます。

また、ジュニア・リーダーの講師となる人材の確保も図ります。

目 標：大人と子どもの架け橋となり、地域で活躍できる子どもを育成する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：子ども家庭支援課

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	開催数	2 回	2 回	内容を充実させる。
	参加者数	17 人	50 人	
成果指標	ジュニア・リーダー人数	17 人	50 人	



⑥ スポーツ指導者講習会の開催

市民がスポーツを安全に楽しみながら学んでもらうために、適切な指導を行える市民スポーツ指導者の講習会を開催します。

各競技団体で実施している指導者講習会と役割分担をして、技術的な指導者よりも、競技種目を問わず、基礎体力づくりや全体のコーディネートができる人材育成を目指すとともに、指導者の候補となる人材の確保にも努めます。

目 標：スポーツ指導者を育成する

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：スポーツ推進課

関連計画：スポーツ推進計画

指標項目		R3実績値	R9目標値	備考
施策指標	開催数	—※	3回	
成果指標	アンケート満足度	—※	80%	「満足」・「まあ満足」の合計比率

※施策中止のため

⑦ 自主防災会長・自主防災リーダー研修会の開催



防災啓発活動や日頃の防災に関する学びに取り組む人向けに、自主防災会長・自主防災リーダー研修会を開催し、地域の自主防災組織でリーダーとして活躍できる人材の育成を図ります。

目 標：地域の自主防災組織で活躍できるリーダーを育てる

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：危機管理課

関連計画：地域防災計画

指標項目		R3実績値	R9目標値	備考
施策指標	参加者数（自主防災組織活動のための研修会参加者）	51人	55人	
成果指標	自主防災組織訓練実施率	38%	75%	

⑧ 日赤奉仕団活動に伴う訓練、講習会等の開催



日赤奉仕団活動としての訓練や講習会等を開催し、災害時に奉仕活動ができるリーダーを育成します。

目 標：災害時に奉仕活動ができるリーダーを育てる

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：福祉課

関連計画：地域福祉計画



指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	開催数	15 回	35 回	
	参加者数（各地域の奉仕団員のうち訓練に参加した割合）	19%	50%	
成果指標	開催数	15 回	35 回	
	参加者数（各地域の奉仕団員のうち訓練に参加した割合）	19%	50%	

⑨ 手話奉仕員養成講座の開催

聴覚障がい者のサポート役や交流活動を促進する役割を担う手話奉仕員を養成し、手話通訳者を目指す人の基礎を学ぶ講座として実施します。

目 標：日常会話に必要な手話技術を習得するための手話奉仕員の養成講座を開催する

対象世代：－

担 当 課：障がい者支援課

関連計画：障害福祉計画



指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	受講者数	6 人	15 人	
成果指標	受講者に対する修了者の割合	66%	80%	

⑩ 健康づくり推進員の活動拡充



コロナ
対応

生涯学習に取り組む上で必要な自己の健康の維持・増進を図るために、各地域で健康づくりの取組を広げる健康づくり推進員を育成し、活動を広げます。

目 標：健康づくり推進員の地域活動を推進する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：健康推進課

関連計画：健康づくり計画



指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	地区活動回数	27 回	45 回	
成果指標	推進員活動回数（全体学習会、地区学習会を含む）	30 回	48 回	

（２）自主活動支援

<現状・課題と方向性>

生涯学習の成果を地域貢献に生かしていくためには、行政側からその機会の提供を図るだけでなく、地域貢献に資する自主的な活動の支援も重要です。

現状ではそうした活動支援が十分といえない面もあるため、市民が必要とするサービス内容を随時把握して、的確な支援策を展開していく必要があります。

<施策内容>

① 自主サークル活動支援



自主的な生涯学習の取組を全市に展開していくために、自主サークルを支援します。

目 標：市民が継続的に自主活動できるように支援する

対象世代：24 歳以下 25～44 歳 45～64 歳 65 歳以上

担 当 課：生涯学習課

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	刊行物等(Link、公民館報)による紹介回数	73 件	200 件	
成果指標	自主サークル継続活動数	183 団体	200 団体	

② 図書館ボランティアの活動支援

図書館ボランティアが活躍できる様々な事業展開を図り、主体的に活動できる場を広げます。図書館ボランティアが日々の活動の中で知識や技術を習得するための支援を行い、主体的に活動できる場を広げます。

目 標：図書館ボランティアが主体的に活動できるように支援する

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：文化課

関連計画：図書館基本計画

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	図書館サポーター数	26人	35人	
成果指標	サポーターの活動延べ回数	229回	250回	

③ 市民活動サポートセンターの充実



市民と行政、その他団体等との連携・協働を促す市民活動サポートセンターの機能を拡充させ、市民活動の支援及び活動の促進を図ります。

目 標：市民活動を支援・促進し、協働を推進する

対象世代：24歳以下 25～44歳 45～64歳 65歳以上

担当課：地域づくり課

関連計画：協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画

指標項目		R3 実績値	R9 目標値	備考
施策指標	交流機会の回数	7回	7回	R3に5回増としている。
成果指標	登録団体数	184団体	220団体	

第5章 本計画の進め方

5.1 総合的な推進体制の継承 ～各主体の役割の明確化～

本計画の推進にあたっては、第1次生涯学習推進計画策定時に構築した総合的な体制を継承し、市民等との連携・協働を軸に、庁内で計画の進捗管理を行う生涯学習推進本部と計画の進捗状況の確認を行う社会教育委員の会議が両輪となって、関係する庁内各課や附属機関・行政機関と連携を図りながら計画を進めます。

右図に示す体制を念頭に、各主体の果たす役割を以下に示します。

(1) 生涯学習推進本部

生涯学習推進本部は、関係各課を構成員とする庁内組織で、計画の進捗管理のほか、関係各課の関連施策との調整を図りながら、本計画に基づく個別施策の実施方針や重点施策等を決定し、関係各課に必要な事業展開を指示するとともに、市民等の意向を把握して、個別施策及び計画全体の効果の分析・評価を行い、必要に応じた計画を見直し、改善を図ります。

(2) 社会教育委員の会議

社会教育委員は、「社会教育法」に規定され、社会教育に関する諸計画の立案、調査研究などによって、社会教育に関して教育委員会に助言をする役割を果たしています。計画の立案、進捗状況の確認、検証を行い、必要な提言を行います。

(3) 関係各課

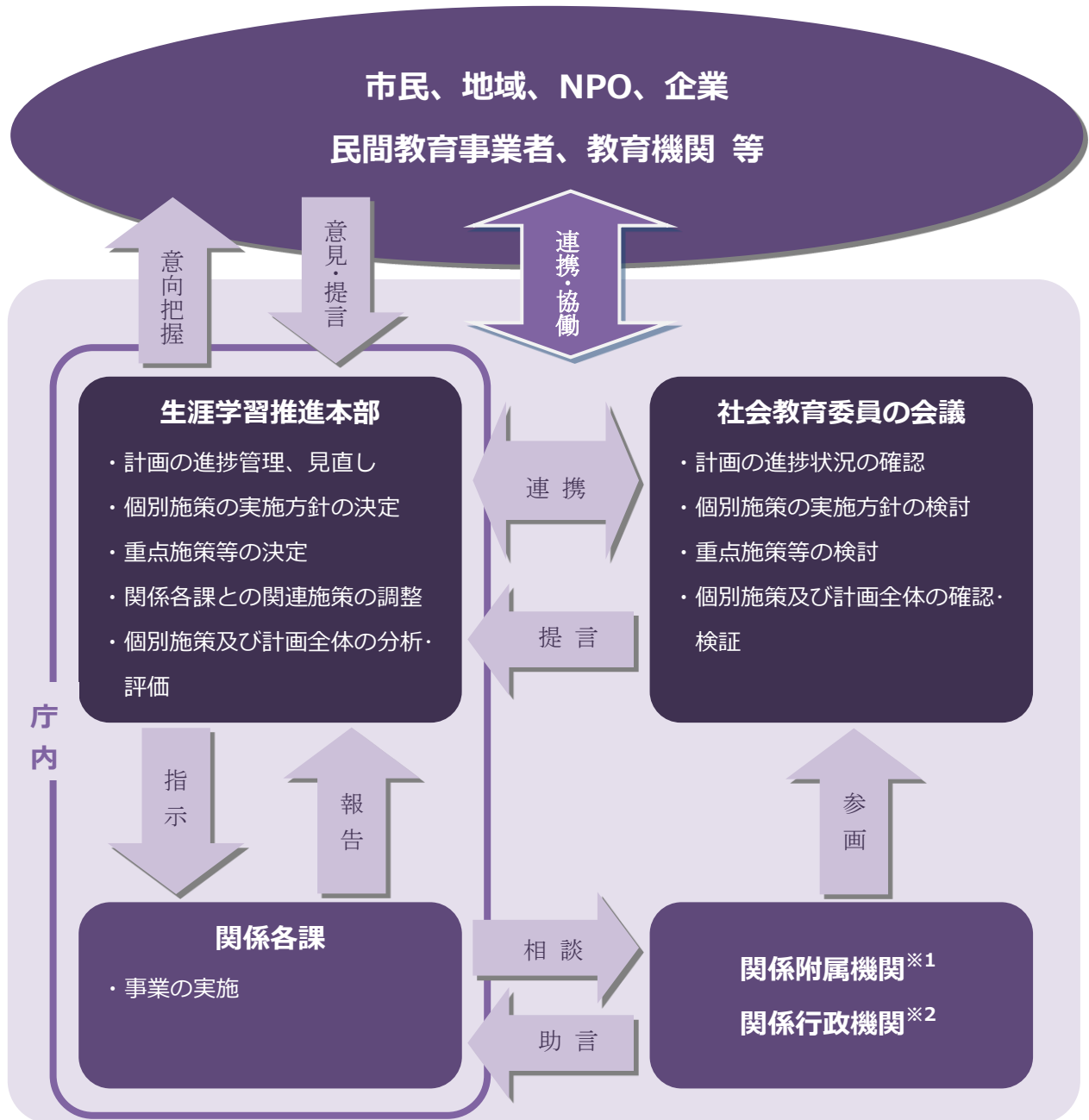
関係各課は、本計画に基づく事業の主体として、生涯学習推進本部の指示を踏まえ、計画の目的や個別施策の目標に沿って事業を実施します。

(4) 関係する附属機関・行政機関

関係する附属機関・行政機関は、計画の進捗管理や事業実施に際し、生涯学習推進本部や関係機関からの相談に応じて、必要な助言を行います。

(5) 市民等の役割

生涯学習の取組主体である市民は、意向調査を通じて、計画や事業に対する意見・提言も行うとともに、地域、NPO、企業、民間教育事業者、教育機関等とともに、計画の推進と改善に努めます。



※1 公民館運営審議会など社会教育関係の附属機関

※2 国や県の行政機関

本計画の推進体制

5.2 計画管理の手法 ～計画の実効性の担保～

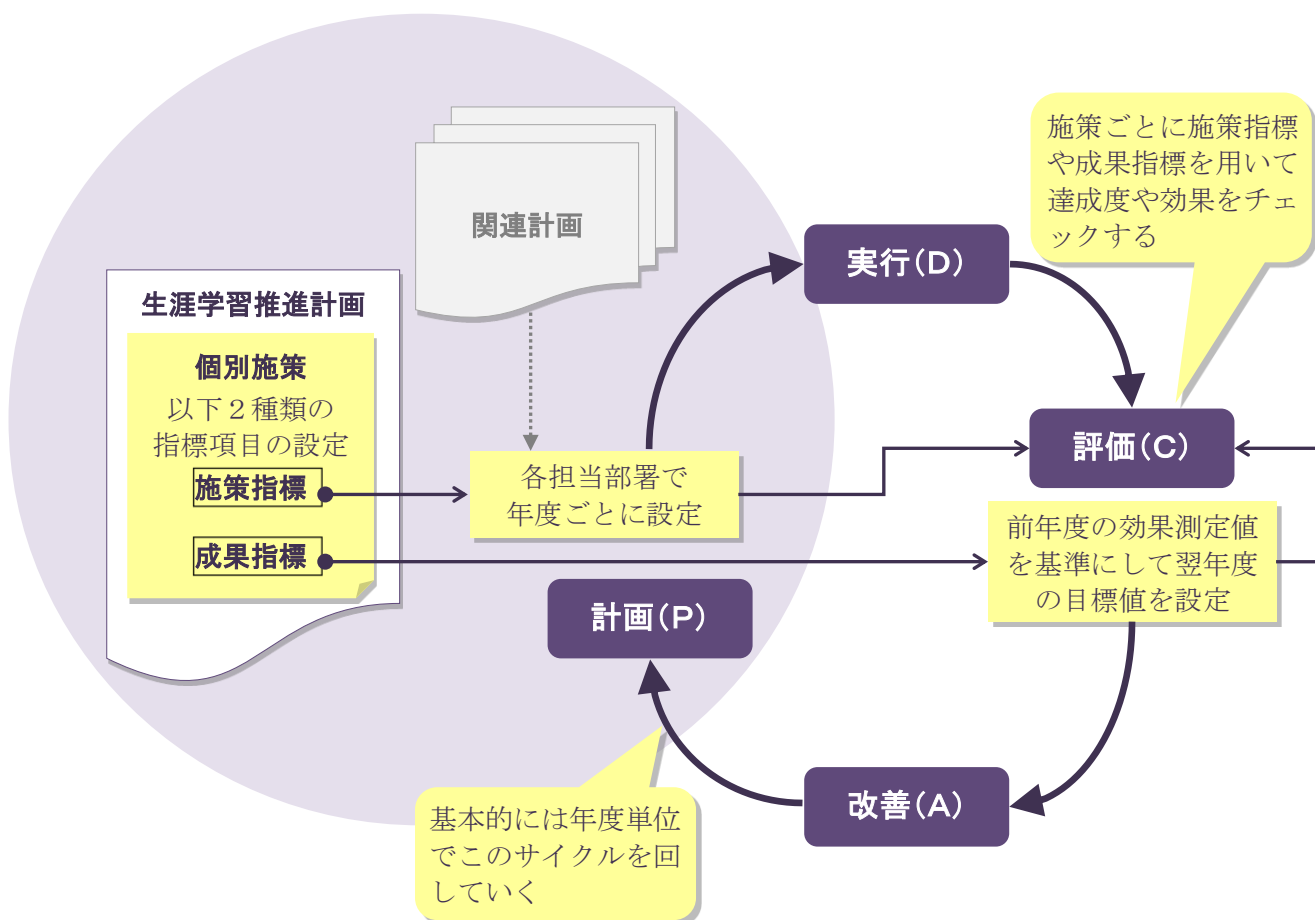
本計画の実効性を担保するための計画管理の手法を示します。

(1) 個別施策の管理手法

第4章に示した個別施策には、施策ごとにその達成度を測る指標（施策指標）と、施策の効果を測る指標（成果指標）の項目を定めました。

施策指標は、関連計画に記載のある施策であればその内容も踏まえて、各担当部署で年度ごとに目標数値を定め、PDCA サイクル^{巻末 16}で、達成状況を確認しながらその進捗を管理します。成果指標については、施策実施後のアンケートなど施策ごとに的確に効果を捉えられる手法で数値化を図り、施策内容の改善につなげます。

したがっていずれの指標も、前年度の実施状況とその効果を検証・評価したうえで、必要に応じた施策内容の改善を図りながら、随時、目標数値を定めるプロセスを基本とします。



個別施策の管理手法

(2) 前期計画の目標達成状況

平成 30 (2018) 年度から令和 4 (2022) 年度までの前期 5 か年は、当初計画に基づいて、各所管課で施策展開を図り、生涯学習の取組を推進してきました。

前期計画の目標達成状況として、平成 30 (2018) 年度から令和 3 (2021) 年度までの 4 か年で施策指標と成果指標について目標値を定めて取り組んだ個別施策のうち、目標を達成した施策の比率(目標達成度)を施策項目の小分類ごとに算定して、下表に整理しました。

前期計画の目標達成状況

施策項目		施策指標の 目標達成状況	成果指標の 目標達成状況
生涯学習に取り組みやすい 環境づくり	(1) 情報の発信・提供	40.0%	60.0%
	(2) 妨げ要因への対応	55.6%	37.5%
生涯学習の機会の提供	(1) 分野に応じた学習機会	54.1%	88.9%
	(2) 年代に応じた学習機会	36.4%	86.7%
利用満足度の高い施設運営	(1) 施設の運営	83.3%	100.0%
	(2) 施設環境の整備	50.0%	100.0%
成果発表の機会の創出	(1) 成果発表の機会の提供	72.7%	88.9%
	(2) 成果発表の場所の提供	50.0%	33.3%
成果を生かした地域貢献	(1) 人材育成・活躍の機会	45.0%	23.5%
	(2) 自主活動支援	80.0%	40.0%

(3) 後期計画の目標値

後期計画の目標として、個別施策ごとに、後期計画終了時の令和 9 (2027) 年度における施策指標、成果指標のそれぞれの目標値を設定し、58 ページ、59 ページの表に整理しました。

後期計画の個別施策の目標値

	施策項目	施策指標			成果指標				
		指標項目	R3実績値	R9目標値	指標項目	R3実績値	R9目標値	ページ	
生涯学習に取り組みやすい環境づくり	(1)情報の発信・提供								
	① 冊子「安曇野市生涯学習情報「Link(リンク)」の発行	発行部数	1,804部	1,900部	残部数	204部	155部以下	15	
	② 公民館報の発行	認知度	68%	75%	アンケート満足度	73.60%	75%	15	
	③ インターネットを活用した情報発信	投稿回数(ツイッター)	1回	50回	いいね数+リツイート数	4回	250回	16	
	④ SNS上でのコミュニティ創出のきっかけづくり	SNS上のコミュニティ活用方法紹介回数	—※	12回	コミュニティ創出数、SNS上のコミュニティ活用方法紹介人数	—※	5グループ 120人	16	
	(2)妨げ要因への対応								
	① 講座開催日時の工夫	参加者数	1,433人	1,500人	受講者のうち働く世代の講座参加率	—※	30%	18	
	② 公民館講座の開催	講座開催数、参加者数	169回 2,593人	200回 3,000人	受講者のうち交通手段がない人の講座参加率	—※	10%	18	
	③ 「電子申請サービス」の活用	サービス活用数	—※	10回	サービス利用人数	—※	300人	19	
	④ 子どもの読書活動の推進	児童書の蔵書数	130,700冊	140,000冊	児童書貸出冊数	316, 221冊	340,000冊	19	
	⑤ 託児サービスの提供	利用件数	1件	10件	講演会参加等による依頼件数	1件	10件	20	
	学習機会の充実	(1)分野に応じた学習機会							
		① 人権に関する講座の開催	開催数、参加者数(人権に関する学習会や研修会、講演会等)	32回 586人	50回 1,000人	アンケート満足度	90%	90%	22
		② ICT関連講座の開催	参加者数	208人	230人	アンケート満足度	88%	90%	22
		③ 日本語教室の開催	開催数、受講者数	112回 367人	160回 1,300人	アンケート満足度	—※	80%	23
		④ 図書館講座等の開催	開催数、参加者数	23回 2,467人	25回 4,000人	アンケート満足度	99.00%	90%	23
		⑤ 博物館・美術館・文書館等講座の開催	開催数	135回	140回	参加者数	5,134人	5,200人	24
		⑥ 芸術公演・講習会の開催	開催数、参加者数	7回 692人	7回 1,000人	アンケート満足度	89.00%	90%	24
		⑦ 鑑賞機会の充実	特別展の開催数	6回	7回	特別展の参加者数	8,026人	15,000人	25
⑧ 共生社会づくりフォーラムの開催		参加者数(オンライン受講者を含む)	61人	70人	アンケート満足度	26%	80%	25	
⑨ 共生社会づくりのための講座の開催		参加者数(オンライン受講者を含む)	34人	150人	アンケート満足度	92%	90%	26	
⑩ 環境講座の開催		参加者数	162人	200人	アンケート満足度	91%	95%	26	
⑪ スポーツ教室の開催		開催数、参加者数	15回 4,166人	25回 4,300人	アンケート満足度	90%	90%	27	
⑫ 防災啓発活動の支援		実施回数	1回	2回	出前講座開催回数	22回	25回	27	
⑬ 災害時福祉避難スペース設置訓練		訓練回数	1回	1回	訓練参加者数	28%	80%	28	
⑭ 協働のまちづくり出前講座の開催		開催数	60回	80回	アンケート満足度	94%	94%	28	
(2)年代に応じた学習機会									
① 博物館・美術館における親子向け事業の実施		開催数	8回	12回	参加者数	502人	600人	30	
② 「おはなしかい」等の定期開催		開催数、参加者数	111回 1, 386人	120回 2,000人	アンケート満足度	100%	90%	30	
③ ブックスタート・セカンドブック事業の実施		図書配布率	97.60%	100%	アンケート満足度	—※	80%	31	
④ ヤングアダルト(中高生)を対象とした企画事業		開催数	1回	3回	アンケート満足度	100%	90%	31	
⑤ 青少年体験事業の実施		参加者数	308人	800人	アンケート満足度	96%	96%	32	
⑥ 子育て勉強会・育児相談の実施		開催数	13回	15回	参加者数	218人	250人	32	
⑦ 「朗人大学」の開催		新規受講者数	37人	37人	アンケート満足度	77%	80%	33	
⑧ 健康体操教室の開催		開催数、参加者数	54回 634人	54回 660人	参加者の体重減	△2.7kg	△2.7kg	33	

※施策が未実施、中止、R5 開始又は未調査等のため

	施策項目	施策指標			成果指標			
		指標項目	R3実績値	R9目標値	指標項目	R3実績値	R9目標値	ページ
学習機会の充実	(1)施設の運営							
	①学芸員研修会の開催	開催数	1回	2回	参加者数	18人	50人	35
	②図書館職員研修	開催数	3回	4回	レファレンス(相談・調査)件数	4,567件	7,280件	35
	③施設連携事業の実施	開催数	5回	10回	施設利用者満足度	87%	90%	36
	④出前(コンパクト)展示の実施	開催数	21回	23回	アンケート満足度	82.40%	90%	36
	⑤交流学習センターの利便性向上	自主事業の実施件数	10回	10回	貸館件数	1,997件	2,600件	37
	⑥音響照明スタッフ・レセプションの活用	登録者数	20人	25人	活用回数	128回	170回	37
	(2)施設環境の整備							
	①公民館、交流学習センター等の会議室のWi-Fi環境拡充	利用可能な会議室数	—※	5室	インターネット接続回数	—※	50回	38
	②博物館・美術館の展示環境の改善	小中学生向けの事業件数	18回	20回	小中学生の利用者数	1,556人	1,700人	38
③必要・十分な量の図書館資料の整備	人口一人当たりの蔵書数	4.6冊	5.2冊	人口1人当たりの貸出冊数	7.85冊	9冊	39	
成果発表の機会の創出	(1)成果発表の機会の提供							
	①地域文化祭の開催	地域文化祭出演団体数(団体)	96団体	117団体	来場者アンケートの満足度	94%	95%	42
	②公募展の開催	開催数	1回	2回	来場者アンケートの満足度	90%	90%	43
	③機関誌等の発行	発行部数	4,500部	4,500部	マスコミに取り上げられた件数	2回	3回	43
	④新進音楽家公開演奏会の開催	演奏会開催数	4回	5回	参加者数	19人	30人	44
	⑤子ども文化祭の開催	参加者数	103人	400人	参加者来場者アンケートの満足度	—※	80%	44
	⑥環境フェアの開催	参加団体数、来場者数	中止	50団体 2,000人	参加者出展者アンケート、来場者アンケートの満足度	—※	90%	45
	⑦市民スポーツ祭の開催	体験イベント及び種目別競技会の延べ参加者数	132人	2,250人	体験イベント参加者アンケートの満足度	—※	80%	45
	(2)成果発表の場所の提供							
	①発表の場としてのホールの活用	体験利用の機会の実施回数	1回	5回	ホール利用申込件数	1,310件	1,670件	46
②貸スペースの稼働率の向上	市民参加型企画の実施件数	3回	4回	貸し出し件数	1,977人	2,600件	46	
学習成果の活用	(1)人材育成・活躍の機会							
	①リーダーバンク制度の活用	登録者数	65件	70件	問い合わせ件数	1件	10件	47
	②安曇野市コミュニティスクール事業の実施	学校と地域による地域学校協働活動校数、学校運営協議会での目標・ビジョンの共有(会議開催数)	—※	17校 17回	地域学校協働本部連絡会の仕組みを生かして、地域との協働による活動を行った学校数、教職員及び保護者の学校評価における評価結果	—※	17校 学校評価	48
	③読み聞かせボランティアの育成	開催数、参加者数	2回 9人	3回 30人	お話サポーター登録数	16人	20人	48
	④朗読協力者(朗読ボランティア)研修会の開催	開催数	10回	10回	朗読協力者登録者数	15人	25人	49
	⑤ジュニア・リーダー養成講座の開催	開催数、参加者数	2回 17人	2回 50人	ジュニア・リーダー人数	17人	50人	49
	⑥スポーツ指導者講習会の開催	開催数	中止	3回	アンケート満足度	—※	80%	50
	⑦自主防災会長・自主防災リーダー研修会の開催	参加者数	51人	55人	自主防災組織訓練実施率	38%	75%	50
	⑧日赤奉仕団活動に伴う訓練、講習会等の開催	開催数、参加者数(奉仕団員の訓練に参加した割合)	15回 19%	35回 50%	開催数、参加者数(奉仕団員の訓練に参加した割合)	15回 19%	35回 50%	51
	⑨手話奉仕員養成講座の開催	受講者数	6人	15人	受講者に対する修了者の割合	66%	80%	51
⑩健康づくり推進員の活動拡充	地区活動回数	27回	45回	推進員活動回数	30回	48回	52	
(2)自主活動支援								
①自主サークル活動支援	刊行物等(Link、公民館報)による紹介回数	73件	200件	自主サークル継続活動数	183団体	200団体	52	
②図書館ボランティアの活動支援	図書館サポーター数	26人	35人	サポーターの活動延べ回数	229回	250回	53	
③市民活動サポートセンターの充実	交流機会の回数	7回	7回	登録団体数	184団体	220団体	53	

※施策が未実施、中止、R5 開始又は未調査等のため

付属資料

資料1 計画策定にかかる委員会の委員名簿

資料2 用語解説

資料1 計画策定にかかる委員会の委員名簿

第2次安曇野市生涯学習推進計画（後期計画）策定にかかる安曇野市社会教育委員名簿

役職等	氏名	条例による設置区分
議長	猿田 みさ子	社会教育関係者
副議長	丸山 明男	社会教育関係者
委員	高橋 みち子	社会教育関係者
委員	鳥羽 将司	社会教育関係者
委員	赤羽 敦子	社会教育関係者
委員	荻原 義重	学校教育関係者
委員	筒井 年恵	学校教育関係者
委員	柿本 豊	社会教育関係者
委員	池田 安宏	学校教育関係者
委員	伊藤 政江	家庭教育の向上
委員	浅見 郁子	社会教育関係者
委員	三澤 正彦	学校教育関係者

(敬称略)

資料2 用語解説

番号	用語 →出現ページ	解説
1	ICT →P4,22,38	Information and Communication Technology の略で、情報通信技術と訳される。コンピュータやインターネットを介して行う情報処理や通信に関する総合的な技術を示す言葉で、IT（情報技術）とほぼ同義だが、ICT は情報の共有や伝達などコミュニケーションの重要性を伝える意図で近年よく用いられている。
2	AI→P4	Artificial Intelligence の略で人工知能と訳される。コンピュータを使って、学習、判断など人間の知能の働きを人工的に実現したもの。
3	IoT→P4	Internet of Things の略でモノのインターネットと訳される。自動車や家電、ロボットなど様々なものがインターネットにつながり、情報のやり取りすること。
4	ビックデータ→P4	様々な種類や形式のデータを含む巨大なデータ群のこと。あらゆる分野・業界間のデータを効率的に収集、蓄積、分析し、活用するための技術のこと。
5	超スマート社会 (society5.0) →P4	狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国がめざすべき未来社会の姿として初めて提唱された。サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会 (society) のこと。
6	SNS (Facebook や Twitter など) →P5,14,16	Social Networking Service (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) の略。インターネットを介して提供されているサービスで、個人や企業・組織の職員等がメッセージや写真などを投稿し、特定のあるいは不特定多数の人々がそれらを閲覧・共有することができ、様々な交流や情報発信の手段にもなっている。主なサービスとして、Facebook (フェイスブック) や Twitter (ツイッター)、LINE (ライン)、Instagram (インスタグラム) などがある。
7	IT →P13,22	Information Technology の略で、情報技術と訳される。ICT (情報通信技術) とほぼ同義であるが、これとの対比で IT は、コンピュータやインターネットの技術そのものを指す言葉として使い分けられる場合もある。
8	やさしい日本語 →P13,23	やさしい日本語は、難しい言葉を言い換えるなど、相手に配慮したわかりやすい日本語のこと。日本語の持つ美しさや豊かさを軽視するものではなく、外国人、高齢者や障害のある人など、多くの人に日本語を使ってわかりやすく伝えようとするもの。 出典：出入国在留管理庁 文化庁 2020年8月「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」

番号	用語 →出現ページ	解説
9	アウトリーチ →P13,30	公的機関や公共的文化施設などが地域に出向いて行うサービスのこと。生涯学習の分野では、学習要求を持っていない人々に対して学習機会を提供し、学習要求や学習行動を引き起こす効果をもつ取組として着目されている。
10	ブックスタート・セカンドブック→P13,31	子どもたちの心の健やかな成長を願い、赤ちゃん（子ども）と保護者が、絵本を介してふれあう時間を持つきっかけになるよう、絵本を届ける事業。
11	レセプションист →P13,37	受付業務や応接業務、会場案内業務、パーティーの企画などを行う人。
12	Wi-Fi（公衆無線LAN） →P13,38	無線 LAN は Wi-Fi（ワイファイ：無線 LAN の規格名称）とも呼ばれ、ノートパソコンやタブレット端末、スマートフォンなど様々な情報通信機器から無線で（電波を利用して）インターネットに接続できるネットワークのこと。これを公共空間などで不特定多数の人が利用できるようにしたものが「公衆無線 LAN」で、そのサービスを提供している場所を「フリースポット」や「Wi-Fi スポット」などと呼ぶ。
13	LLブック→P19	スウェーデン語の Latt last（レットラスト）の略。「やさしく読みやすい本」という意味で、障がいをお持ちの方だけでなく、母国語の異なる方、高齢者など誰でも読書が楽しめるよう、わかりやすい文章やイラスト、写真などを使い、工夫してつくられた本のこと。
14	ワークショップ →P24	参加者の主体性を重視した体験型の講座、グループ学習、研究集会など。
15	おはなしサポーター →P48	図書館が主催するおはなし会で、絵本や紙芝居の読み聞かせ、パネルシアター、手遊びなど活動を行うボランティアのこと。
16	P D C A サイクル →P56	Plan （計画）- Do （実行）- Check （評価）- Act （改善）の4段階の頭文字をとったサイクルで、事業活動の管理業務を円滑に進めるための手法の一つ。これを繰り返すことで、業務を継続的に改善していくという考え方に基づく。

第2次安曇野市生涯学習推進計画
(後期計画)
令和5年3月

発行 安曇野市
編集 安曇野市教育委員会教育部生涯学習課
〒399-8281 長野県安曇野市豊科 6000 番地
TEL:0263-71-2000(代) FAX:0263-71-5000

